

# × シラバス

山口学芸大学大学院教育学研究科子ども教育専攻

## <教育学研究科目>

教育原論特論  
教育課程特論  
教育方法特論  
生涯学習・社会教育特論  
生涯学習・社会教育特論演習  
教育心理学特論  
発達心理学特論  
発達臨床心理学演習  
教員のメンタルヘルス特論  
人権教育研究  
福祉・教育特論  
教育と芸術  
特別支援教育特論  
東アジア文化比較論  
幼児教育特論  
小学校授業実践特論  
小学校授業実践特論演習  
表現活動指導演習  
歌唱表現特別演習  
歌唱文化特別研究  
鍵盤表現特別演習  
造形表現特別演習  
わらべうたの研究  
郷土の美術研究  
第二言語習得研究  
教育情報科学特論

## <専門研究科目>

教育特別研究Ⅰ  
教育特別研究Ⅱ  
教育特別研究Ⅲ  
教育特別研究Ⅳ

## シラバスの見方

山口学芸大学大学院

シラバス（講義概要）：シラバスとは、授業に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等を記載しています。

|              |                           |      |   |           |       |   |
|--------------|---------------------------|------|---|-----------|-------|---|
| 授業科目名        | ①                         | 教員名  | ⑤ | 免許・資格との関係 | 幼稚園教諭 | ⑦ |
| ナンバリングコード    | ②                         |      |   |           | 小学校教諭 | ⑦ |
| 授業形態         | ③                         | 年次配当 | ⑥ |           | 修了要件  | ⑧ |
| 単位数          | ④                         |      |   |           |       |   |
| 教科及び教職に関する科目 | ⑨（幼稚園・小学校）                |      |   |           |       |   |
| 授業テーマ        | ⑩                         |      |   |           |       |   |
| 授業概要         | ⑪                         |      |   |           |       |   |
| 達成目標         | ⑫                         |      |   |           |       |   |
| 履修条件・注意事項    | ⑬                         |      |   |           |       |   |
| 授業計画         | ⑭                         |      |   |           |       |   |
| 成績評価基準       | ⑮ 評価の方法：<br>評価の基準：        |      |   |           |       |   |
| アクティブラーニング   | ⑯                         |      |   |           |       |   |
| フィードバックの方法   | ⑰                         |      |   |           |       |   |
| 時間外の学習について   | ⑱ 予習：<br>復習：              |      |   |           |       |   |
| 教材にかかわる情報    | ⑲ テキスト：<br>参考書：<br>参考資料等： |      |   |           |       |   |
| 担当者からのメッセージ  | ⑳                         |      |   |           |       |   |

- ①授業科目名を記載しています。
- ②科目ナンバリングコードを記載しています。詳細は「ナンバリングシステムについて」で確認してください。
- ③授業形態を記載しています。 講義・演習・実技・実習等。
- ④単位数を記載しています。
- ⑤担当教員名を記載しています。
- ⑥履修年次と開講期間を記載しています。
- ⑦免許・資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑧修士の学位を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑨免許法施行規則に定める科目区分等について記載しています。
- ⑩授業のねらいやテーマについて記載しています。
- ⑪授業のあらましを記載しています。
- ⑫達成目標について記載しています。授業計画の中に当てはまる目標を記載しています。
- ⑬履修する科目の順番や条件等注意事項を記載しています。
- ⑭授業スケジュール（各回で扱う内容等）を記載しています。
- ⑮成績の評価方法と評価基準を記載しています。
- ⑯主体的な学びを促進するために取り入れるアクティブ・ラーニングの、授業時間内で該当する学習形態について記載しています。
- ⑰課題等（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法について記載しています。
- ⑱担当教員より、この授業科目の予習・復習についてのアドバイスを示しています。
- ⑲教科書及び補助教材について記載しています。
- ⑳担当教員より学生に伝えたいメッセージ等を記載しています。

## 教育課程ナンバリング・システムについて

教育課程ナンバリング・システムは、山口学芸大学で開講されている全ての授業科目(教養科目・学部専門科目・大学院専門科目)に対し、授業内容やレベル、更に免許・資格との関連性等に応じて特定の記号や数字を付与し、ナンバリングコードとして示すことにより、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。

ナンバリングコードは、「CM1-1001-211110」のように表記され、以下の①～④のとおり構成されています。

|           |          |   |            |   |           |
|-----------|----------|---|------------|---|-----------|
| CM        | 1        | - | 1001       | - | 211110    |
| ①学部等領域コード | ②学年水準コード |   | ③科目区分識別コード |   | ④免許・資格コード |

|            |  |
|------------|--|
| ①学部等領域コード  | <p>科目を提供する学部や研究科等を表す2文字の英文字です。</p> <p>UM: 大学院教育学研究科 (University+Master)<br/>         CM: 教育学部共通開設科目 (Common+Subject)<br/>         UC: 初等幼児教育専攻開設科目 (University+Childhood)<br/>         UL: 英語教育専攻開設科目 (University+Language)</p>  |
| ②学年水準コード   | <p>科目の開講学年を示す1桁の数字で表しています。数字と授業レベルは必ずしも一致するものではありません。</p> <p>1: 1年次開設科目<br/>         2: 2年次開設科目<br/>         3: 3年次開設科目<br/>         4: 4年時開設科目<br/>         5: 大学院1年次開設科目<br/>         6: 大学院2年次開設科目<br/>         7: その他</p>  |
| ③科目区分識別コード | <p>教育課程の科目区分(1桁)と授業科目の通し番号(3桁)で表しています。</p> <p>1: 教養科目<br/>         2: 学科目<br/>         3: 子ども学<br/>         4: グローバル学<br/>         5: 教育実習<br/>         6: 保育実習<br/>         7: 実践演習<br/>         8: ゼミナール<br/>         9: その他</p>   |
| ④免許・資格コード  | <p>桁数で学校種等を示し、番号で必修・選択を表しています。</p> <p><b>【桁数】</b></p> <p>1桁目 保育士資格の専門科目<br/>         2桁目 幼稚園教諭免許の専門科目<br/>         3桁目 小学校教諭免許の専門科目<br/>         4桁目 中学校教諭免許の専門科目<br/>         5桁目 高等学校教諭免許の専門科目<br/>         6桁目 特別支援学校教諭免許の専門科目</p> <p><b>【番号】</b></p> <p>0: 免許・資格に関連なし<br/>         1: 必修科目<br/>         2: 選択科目</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>※表記例(日本国憲法の場合)</p> <p>保育士資格としては「選択科目」 → 1桁目は、2<br/>             幼稚園教諭免許としては「必修科目」 → 2桁目は、1<br/>             小学校教諭免許としては「必修科目」 → 3桁目は、1<br/>             中学校教諭免許としては「必修科目」 → 4桁目は、1<br/>             高等学校教諭免許としては「必修科目」 → 5桁目は、1<br/>             特別支援教諭免許としては「免許・資格に関係なし」 → 6桁目は、0<br/>             したがって、日本国憲法の免許・資格コードは、211110 と表記される。</p> </div> |

|              |  |      |               |           |       |    |
|--------------|--|------|---------------|-----------|-------|----|
| 授業科目名        | 教育原論特論   | 教員名  | 川野 哲也<br>(単独) | 免許・資格との関係 | 小学校教諭 | 選択 |
| ナンバリングコード    | UM5-0001-02200   |      |               |           | 幼稚園教諭 | 選択 |
| 授業形態         | 講義   | 年次配当 | 1年前期          | 修了要件      |       | 必修 |
| 単位数          | 2  |      |               |           |       |    |
| 教科及び教職に関する科目 | 幼稚園及び小学校   |      |               |           |       |    |
| 授業のテーマ       | 教育と政治に関する思想、教育制度と教育実践に関する理論的考察   |      |               |           |       |    |
| 授業概要         | 民主主義、リベラリズム、共同体主義、公共性など政治と教育に関する思想について理解するとともに、教育制度と教育実践について理論的に分析、考察する。   |      |               |           |       |    |
| 達成目標         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リベラリズムの思想の特徴を理解し、教育制度や教育実践について考察する。</li> <li>2. 共同体主義の特徴を理解し、教育制度や教育実践について考察する。</li> <li>3. 公共性の思想の特徴を理解し、教育制度や教育実践について考察する。</li> </ol>  |      |               |           |       |    |
| 履修条件・注意事項    | ①面接授業のみ  |      |               |           |       |    |
| 授業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の目的は何か。民主主義に関する諸理論。 (目標 1,2,3)</li> <li>2. リベラリズムの思想 教育の権利。 (目標 1)</li> <li>3. リベラリズムの思想 公民教育のあり方。 (目標 1)</li> <li>4. リベラリズムの思想 学校選択制度。公教育の問い直し。 (目標 1)</li> <li>5. デューイの思想 民主主義と教育。 (目標 1,2,3)</li> <li>6. 再生産理論の問題提起、不平等な社会秩序、多文化社会の課題。 (目標 1,2,3)</li> <li>7. 共同体主義、アリストテレスの思想、美德。 (目標 2)</li> <li>8. 共同体主義、公民教育、愛国心教育、共同体のための教育。 (目標 2)</li> <li>9. 共同体主義、共同体の中の教育、地域運営学校。 (目標 2)</li> <li>10. 公共性の思想、公的領域と私的領域。 (目標 3)</li> <li>11. 公共性の思想、学校と教師の位置。 (目標 3)</li> <li>12. 公共性の思想、&lt;活動&gt; (目標 3)</li> <li>13. 公共性の思想、学級づくり、演劇教育。 (目標 3)</li> <li>14. 公共性の思想、開かれた学校制度。 (目標 3)</li> <li>15. まとめ。 (目標 1,2,3)</li> </ol> |      |               |           |       |    |
| 成績評価基準       | <p>評価の基準：それぞれの思想の特徴について説明できるか。<br/> 思想に照らし合わせながら教育制度や教育実践を考察できるか。</p> <p>評価の方法：授業中の確認テスト 50%、レポート 50%</p>  |      |               |           |       |    |
| アクティブラーニング   | ディスカッション、プレゼンテーション   |      |               |           |       |    |
| フィードバックの方法   | 毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。  |      |               |           |       |    |
| 時間外の学習について   | <p>予習：事前に配布したプリントを読み、必要に応じて調べる。90分</p> <p>復習：プリント、ノートを見て、確認すること。90分</p>  |      |               |           |       |    |
| 教材にかかわる情報    | <p>テキスト：宮寺晃夫著『リベラリズムの教育哲学 多様性と選択』勁草書房、2000年。<br/> 小玉重夫著『教育改革と公共性 ボウルズ＝ギンタスからハンナ・アレントへ』東京大学出版会、1999年。<br/> ハンナ・アレント著、清水速雄訳『人間の条件』ちくま書房、1994年。</p> <p>参考書：適宜プリントを配布する。</p> <p>参考資料等：佐伯啓思著『日本の愛国心』NTT出版、2008年。<br/> 岡田敬司著『人間形成にとって共同体とは何か』ミネルヴァ書房、2009年。</p>  |      |               |           |       |    |
| 担当者からのメッセージ等 |  |      |               |           |       |    |
| 備考           |  |      |               |           |       |    |

|                            |   |       |                |               |           |     |
|----------------------------|---|-------|----------------|---------------|-----------|-----|
| 授 業 科 目 名                  | 教育課程特論  | 教 員 名 | 松村 納央子<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選 択 |
| ナンバリングコード                  | UM5-0002-02200  |       |                |               | 幼 稚 園 教 諭 | 選 択 |
| 授 業 形 態                    | 講義  | 年次配当  | 1 年前期          | 修 了 要 件       |           | 選 択 |
| 単 位 数                      | 2   |       |                |               |           |     |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 幼稚園及び小学校  |       |                |               |           |     |
| 授業のテーマ                     | 近代・現代の教育課程の考察   |       |                |               |           |     |
| 授 業 概 要                    | 欧米における教育課程に関する議論についての理解を深め、教育課程に関する現代的諸課題を考察する。   |       |                |               |           |     |
| 達 成 目 標                    | 1. 教育課程の基本問題を把握する。<br>2. 教育課程の諸概念の理解を深める。<br>3. 今日の教育課程に関する教育課題の考察・追究力を高める。   |       |                |               |           |     |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接授業のみ   |       |                |               |           |     |
| 授 業 計 画                    | 1. 教育課程の基本問題Ⅰ - 「スパイラルカリキュラム」 (目標 1,2,3)<br>2. 教育課程の基本問題Ⅱ - 「実践的カリキュラム」論 (目標 1,2,3)<br>3. 教育課程の基本問題Ⅲ - 「クロスカリキュラム」論 (目標 1,2,3)<br>4. 教育課程の基本問題Ⅳ - 「PISA ショック」がもたらした教育課程改革 (目標 1,2,3)<br>4. 学校教育課程の日独比較Ⅰ - 日本「学習指導要領」とドイツ各州文部大臣会議「教育スタンダード」 (目標 1,2)<br>5. 学校教育課程の日独比較Ⅱ - 「コンピテンシー」をどう解釈するか (目標 1,2)<br>6. 学校教育課程の日独比較Ⅲ - 就学前教育における学校教育課程編成 (目標 1,2)<br>7. 学校教育課程の日独比較Ⅳ - 初等教育段階における学校教育課程編成 (目標 1,2)<br>8. 学校教育課程の日独比較Ⅴ - 前期中等教育段階における学校教育課程編成 (目標 1,2)<br>9. 学校教育課程の日独比較Ⅵ - 後期中等教育段階における学校教育課程編成 (目標 1,2)<br>10. 学校教育課程の日独比較Ⅶ - 教育課程における「メディア」の扱い (目標 1,2)<br>11. 学校教育課程の日独比較Ⅷ - 教育課程における「多様性」保障 (目標 1,2)<br>12. 学校教育課程の日独比較Ⅸ - 学校教育課程の評価 (目標 1,2)<br>13. 教育課程に関する現代的諸課題Ⅰ - コロナ禍と学校教育課程 (目標 1,2,3)<br>14. 教育課程に関する現代的諸課題Ⅱ - 「隠れたカリキュラム」 (目標 1,2,3)<br>15. 教育課程に関する現代的諸課題Ⅲ - カリキュラム評価、カリキュラム経営 (目標 1,2,3) |       |                |               |           |     |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の基準：知識・理解・思考・判断<br>評価の方法：毎回の発言・質問 20%、レポート 80%  |       |                |               |           |     |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、   |       |                |               |           |     |
| フィードバックの方法                 | テキストとの解説とともに、考察についてコメントし合う。<br>授業改善方法について話し合う。  |       |                |               |           |     |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | 予習：次回のテキスト該当箇所を読む。90 分<br>復習：ノート提出・点検。90 分  |       |                |               |           |     |
| 教材にかかわる<br>情 報             | テキスト：特になし<br>参 考 書：田中統治・根津朋実共著『カリキュラム評価入門』勁草書房<br>参考資料等：  |       |                |               |           |     |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 |   |       |                |               |           |     |
| 備 考                        |   |       |                |               |           |     |

|                            |  |       |               |               |           |     |
|----------------------------|--|-------|---------------|---------------|-----------|-----|
| 授 業 科 目 名                  | 教育方法特論   | 教 員 名 | 川野 哲也<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選 択 |
| ナンバリングコード                  | UM5-0003-02200   |       |               |               | 幼 稚 園 教 諭 | 選 択 |
| 授 業 形 態                    | 講 義  | 年次配当  | 1年後期          | 修 了 要 件       |           | 選 択 |
| 単 位 数                      | 2  |       |               |               |           |     |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 幼稚園及び小学校   |       |               |               |           |     |
| 授業のテーマ                     | 近代・現代の教育方法論の考察   |       |               |               |           |     |
| 授 業 概 要                    | <p>デューイの『民主主義と教育』、『思考の方法』等を主要文献として探究を基軸とするかれの教育方法論の理解をふかめる。またブルーナーの『教育の過程』等でかれの構造学習論を把握しながら、今日の社会的構成主義学習論の考察へとつなげていく。</p> <p>学生にプレゼンテーションをさせる際にはパソコン等の情報機器を使用させ、教材の提示・活用方法についても指導する。</p>   |       |               |               |           |     |
| 達 成 目 標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法論の基本問題を把握する。</li> <li>2. 教育方法の諸概念の理解をふかめる。</li> <li>3. 今日の教育方法に関する教育課題の考察・追究力をたかめる。</li> </ol>   |       |               |               |           |     |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接授業のみ  |       |               |               |           |     |
| 授 業 計 画                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デューイの教育論Ⅰ - 「生命に必要なものとしての教育」 (目標 1,2)</li> <li>2. デューイの教育論Ⅱ - 「社会の機能としての教育」 (目標 2)</li> <li>3. デューイの教育論Ⅲ - 「指導としての教育」 (目標 2)</li> <li>4. デューイの経験学習論 - 「ひとつの経験」、「経験と実験」 (目標 1,2)</li> <li>5. デューイの知識学習論 - 「知識と情報」 (目標 1,2,3)</li> <li>6. デューイの探究的思考論Ⅰ - 「探究過程論」 (目標 2)</li> <li>7. デューイの探究的思考論Ⅱ - 「探究の二つの操作、二つの構成要素」 (目標 2)</li> <li>8. デューイの探究的思考論Ⅲ - 「探究過程と情報知」 (目標 1,3)</li> <li>9. デューイの教育方法論Ⅰ - 「教師の指導性」 (目標 2)</li> <li>10. デューイの教育方法論Ⅱ - 「発問論」 (目標 2)</li> <li>11. ブルーナーの学習論Ⅰ - 「ブルーナー仮説」 (目標 1,2,3)</li> <li>12. ブルーナーの学習論Ⅱ - 「構造学習」 (目標 2)</li> <li>13. ブルーナーの学習論Ⅲ - 「学習意欲」 (目標 2)</li> <li>14. ブルーナーの学習論Ⅳ - 「乳幼児の言語学習」 (目標 2)</li> <li>15. 今日の学習論の考察 - 「社会的構成主義学習論」 (目標 1,2,3)</li> </ol> |       |               |               |           |     |
| 成 績 評 価 基 準                | <p>評価の基準：知識・理解、思考・判断</p> <p>評価の方法：毎回の発言・質問20%、プレゼンテーション内容80%</p>   |       |               |               |           |     |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション   |       |               |               |           |     |
| フィードバックの方法                 | <p>テキストの解説とともに、考察についてコメントし合う。</p> <p>授業改善方法について話し合う。</p>   |       |               |               |           |     |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | <p>予習：次回のテキスト該当箇所を読む90分。</p> <p>復習：ノート提出・点検90分。</p>  |       |               |               |           |     |
| 教材にかかわる<br>情 報             | <p>テキスト：デューイ著・松野安男訳『民主主義と教育（上）（下）』岩波文庫<br/>ブルーナー著・鈴木祥三他訳『教育の過程』岩波書店</p> <p>参 考 書：森 昭著『経験主義の教育原理』金子書房<br/>ブルーナー著・平光昭久訳『教育の適切性』明治図書 他</p> <p>参考資料等：</p>  |       |               |               |           |     |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 |  |       |               |               |           |     |
| 備 考                        |  |       |               |               |           |     |

|                            |   |       |               |               |           |  |
|----------------------------|---|-------|---------------|---------------|-----------|--|
| 授 業 科 目 名                  | 生涯学習・社会教育特論   | 教 員 名 | 田代 直人<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 |  |
| ナンバリングコード                  | UM5-0004-00000  |       |               |               | 幼 稚 園 教 諭 |  |
| 授 業 形 態                    | 講義  | 年次配当  | 1年前期          | 修 了 要 件       | 選 択       |  |
| 単 位 数                      | 2   |       |               |               |           |  |
| 授 業 の テ ー マ                | 生涯学習・社会教育   |       |               |               |           |  |
| 授 業 概 要                    | 生涯学習・社会教育の専門的事項についての理解を深めるとともに、学校教育と社会教育の連携に関して論じる。   |       |               |               |           |  |
| 達 成 目 標                    | 1. 生涯学習に関する高度の専門的事項について理解することができる。<br>2. 社会教育に関する高度の専門的事項について理解することができる。<br>3. 学校教育と社会教育の連携の理論と実際について理解することができる。  |       |               |               |           |  |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接授業のみ   |       |               |               |           |  |
| 授 業 計 画                    | 1. オリエンテーション～授業のねらい、内容、評価方法などについて説明 (目標 1,2,3)<br>2. 生涯学習の提唱と日本における発展～国の審議会の答申等の考察 (目標 1)<br>3. 生涯学習のキー(鍵)概念についての考察 (目標 1)<br>4. 生涯学習の基本的なねらいと概念の規定の点検 (目標 1)<br>5. 生涯学習の推進と体験学習の意義・充実 (目標 1,2)<br>～「知識伝達型の教育」から「体験重視の教育」への改革動向に関する考察<br>6. 生涯学習の観点から見た社会教育の意義と基本的方向に関する考察 (目標 2)<br>7. 少年教育の意義・重要性と課題 (目標 2)<br>8. 青年教育の意義・重要性と課題 (目標 2)<br>9. 成人教育の意義・重要性と課題 (目標 2)<br>10. 高齢者教育の意義・重要性と課題 (目標 2)<br>11. 社会教育施設～施設の概念の点検及び公民館・青少年施設の課題 (目標 2)<br>12. 社会教育行政の基本原則と組織体制の課題 (目標 2)<br>13. 学校教育と社会教育の連携～連携を充足する要件に関する理論的考察 (目標 3)<br>14. 学校教育と社会教育の連携～事例的考察(飯塚市の生活体験学校等) (目標 3)<br>15. 授業の総括 (目標 1,2,3) |       |               |               |           |  |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の基準：達成目標をおおむね満足していること。<br>評価の方法：発表50%、レポート50%   |       |               |               |           |  |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション  |       |               |               |           |  |
| フィードバックの方法                 | 提出されたレポートは、コメントして返却する。  |       |               |               |           |  |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | 予習：講義資料を必ず読んでくること。90分。<br>復習：講義内容について復習し、不明な点があれば教員に質問のこと。90分。  |       |               |               |           |  |
| 教 材 に か か わ る<br>情 報       | テキスト：田代直人編『社会教育の理論と実践』樹村房 1994年<br>田代直人「生涯学習の概念に関する一考察～教育行政の今日的課題」西日本教育行政学会『教育行政学研究』第21号 2000年<br>田代直人「学社融合に関する一考察(1)－学社融合を充足する要件とは何かをめぐって～」山口大学教育学部研究論叢 第51巻第3部 2001年<br>その他関係の田代の著書・論文等<br>参 考 書：適宜紹介する。<br>参 考 資 料 等：  |       |               |               |           |  |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 |   |       |               |               |           |  |
| 備 考                        |   |       |               |               |           |  |

|                            |   |       |                 |               |           |  |
|----------------------------|---|-------|-----------------|---------------|-----------|--|
| 授 業 科 目 名                  | 生涯学習・社会教育特論演習   | 教 員 名 | 田 代 直 人<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 |  |
| ナンバリングコード                  | UM5-0005-00000  |       |                 |               | 幼 稚 園 教 諭 |  |
| 授 業 形 態                    | 演習  | 年次配当  | 1年後期            | 修 了 要 件       | 選 択       |  |
| 単 位 数                      | 2   |       |                 |               |           |  |
| 授 業 の テ ー マ                | 生涯学習の原理   |       |                 |               |           |  |
| 授 業 概 要                    | ①生涯学習の概念に関する考察<br>②発達課題に関する考察 ③経験主義的教育論に関する考察の観点から、ラングラン著『生涯教育入門』等の重要文献を講読する。   |       |                 |               |           |  |
| 達 成 目 標                    | 1. ラングランの生涯教育論に関する理解を深めることができる。<br>2. ハヴィガーストの発達課題論に関する理論を深めることができる。<br>3. デューイの経験主義的教育論に関する理論を深めることができる。   |       |                 |               |           |  |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接授業のみ   |       |                 |               |           |  |
| 授 業 計 画                    | 1. オリエンテーション～授業のねらい、内容、評価方法等の説明 (目標 1,2,3)<br>2. ラングラン『生涯教育入門』の講読 (1) (目標 1)<br>3. ラングラン『生涯教育入門』の講読 (2) (目標 1)<br>4. ラングラン『生涯教育入門』の講読 (3) (目標 1)<br>5. ラングラン『生涯教育入門』の講読 (4) (目標 1)<br>6. 総括 レポートの提出・発表及び指導 (目標 1)<br>7. ハヴィガースト『人間の発達課題と教育』の講読 (1) (目標 2)<br>8. ハヴィガースト『人間の発達課題と教育』の講読 (2) (目標 2)<br>9. ハヴィガースト『人間の発達課題と教育』の講読 (3) (目標 2)<br>10. ハヴィガースト『人間の発達課題と教育』の講読 (4) (目標 2)<br>11. 総括 レポートの提出・発表及び指導 (目標 2)<br>12. デューイ『民主主義と教育』の講読 (1) (目標 3)<br>13. デューイ『民主主義と教育』の講読 (2) (目標 3)<br>14. デューイ『民主主義と教育』の講読 (3) (目標 3)<br>15. 総括 レポートの提出・発表及び指導 (目標 3) |       |                 |               |           |  |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の基準：達成目標をおおむね満足していること<br>評価の方法：授業時間における発表 (50%) およびレポート (50%) により評価する   |       |                 |               |           |  |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション  |       |                 |               |           |  |
| フィードバックの方法                 | 提出されたレポートは、コメントして返却する。  |       |                 |               |           |  |
| 時 間 外 の<br>学 習 について        | 予習：演習で使う文献を読んでくること。90分<br>復習：毎時間の演習において復習すること。90分   |       |                 |               |           |  |
| 教 材 に か か わ る<br>情 報       | テキスト：①P.ラングラン著・波多野完治訳『生涯教育入門』全日本社会教育連合会 1990年<br>② R.ハヴィガースト著・荘司雅子監訳『人間の発達課題と教育』玉川大学出版部 1995年<br>③J.デューイ著・金丸弘幸訳『民主主義と教育』玉川大学出版部 1997年 (第4刷)<br>なお、①～③の文献は必要に応じて原著を用いる。<br>参 考 書：適宜紹介する。<br>参 考 資 料 等：   |       |                 |               |           |  |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 |   |       |                 |               |           |  |
| 備 考                        |   |       |                 |               |           |  |

|              |  |      |               |               |       |    |
|--------------|--|------|---------------|---------------|-------|----|
| 授業科目名        | 教育心理学特論  | 教員名  | 名島 潤慈<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小学校教諭 | 選択 |
| ナンバリングコード    | UM6-0006-02200   |      |               |               | 幼稚園教諭 | 選択 |
| 授業形態         | 講義   | 年次配当 | 2年前期          | 修了要件          |       | 必修 |
| 単位数          | 2  |      |               |               |       |    |
| 教科及び教職に関する科目 | 幼稚園及び小学校   |      |               |               |       |    |
| 授業のテーマ       | 子どもの学習、知能、パーソナリティ、批判的思考、教育相談、援助技法、障害児  |      |               |               |       |    |
| 授業概要         | 教育心理学の理論や研究成果に基づいて、種々の問題行動・学習意欲の低下・いじめ・学級崩壊・登園拒否・不登校など、幼稚園・小学校におけるさまざまな現代的教育課題と実際の対応法について考究する。   |      |               |               |       |    |
| 達成目標         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの学習や動機づけなどについて理解する。</li> <li>2. 子どもの知能やパーソナリティなどについて理解する。</li> <li>3. 教師との関係性や教師のリーダーシップについて理解する。</li> <li>4. 教育相談における援助技法について理解を深める。</li> <li>5. 子どもの問題行動や疾病への対応について理解を深める。</li> </ol>   |      |               |               |       |    |
| 履修条件・注意事項    | ①面接授業のみ  |      |               |               |       |    |
| 授業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的学習・動機づけの心理学・批判的思考 (目標 1)</li> <li>2. 幼児期・学童期における知能の働き・創造性 (目標 2)</li> <li>3. 子どものパーソナリティと学校適応 (目標 2)</li> <li>4. 子どもの人間関係の発達 (目標 2)</li> <li>5. 教師と生徒との関係性 (目標 3)</li> <li>6. 教師のリーダーシップの問題 (目標 3)</li> <li>7. 教育相談と生徒指導、教育相談における倫理 (目標 4)</li> <li>8. 教育相談における言語技法—マイクロカウンセリング他 (目標 4)</li> <li>9. 教育相談における身体技法—プレイセラピー・筋弛緩法他 (目標 4)</li> <li>10. 教育相談におけるイメージ技法—夢分析他 (目標 4)</li> <li>11. 教育相談における表現技法—絵画療法・カラージュ療法・箱庭療法 (目標 4)</li> <li>12. 子どもの問題行動への理解と対応—自傷・乱暴・いじめ(いじめっ子の心理)・盗み (目標 5)</li> <li>13. 子どもの心身症への理解と対応—夜尿・過換気症候群・過敏性大腸症候群他 (目標 5)</li> <li>14. 情緒障害児の心理と対応—チック・吃音・心因性の登園拒否や不登校・緘黙 (目標 5)</li> <li>15. 発達障害児の心理と対応—自閉スペクトラム症・限局性学習症・注意欠如多動症 (目標 5)</li> </ol> |      |               |               |       |    |
| 成績評価基準       | <p>評価の基準：教育心理学に関する専門的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。</p> <p>評価の方法：レポート(70点) 授業中の発言・取り組みの姿勢(30点)</p>   |      |               |               |       |    |
| アクティブラーニング   | ディスカッション、プレゼンテーション   |      |               |               |       |    |
| フィードバックの方法   | レポートについてコメントする。  |      |               |               |       |    |
| 時間外の学習について   | <p>予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。90分。</p> <p>復習：自分なりのまとめのノートを作る。90分。</p>   |      |               |               |       |    |
| 教材にかかわる情報    | <p>テキスト：特になし。学会誌の論文など、必要な資料はそのつと配布する。</p> <p>参考書：授業のなかで適宜紹介する。</p> <p>参考資料等：授業のなかで適宜紹介する。</p>  |      |               |               |       |    |
| 担当者からのメッセージ等 |  |      |               |               |       |    |
| 備考           |  |      |               |               |       |    |

|                       |   |       |       |               |           |     |
|-----------------------|---|-------|-------|---------------|-----------|-----|
| 授 業 科 目 名             | 発達心理学特論   | 教 員 名 | 堂野 佐俊 | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選 択 |
| ナンバリングコード             | UM5-0007-02200  |       | (単独)  |               | 幼 稚 園 教 諭 | 選 択 |
| 授 業 形 態               | 講義  | 年次配当  | 1 年前期 | 修 了 要 件       |           | 選 択 |
| 単 位 数                 | 2   |       |       |               |           |     |
| 教科及び教職に<br>関する科目      | 幼稚園及び小学校  |       |       |               |           |     |
| 授業のテーマ                | 人間の発達・学習に関する原理や要因、発達課題等の理解を深め、各発達段階における諸特徴について、今日的課題へのアプローチとして、家庭・学校・地域に密着した立場から考察する。   |       |       |               |           |     |
| 授 業 概 要               | 乳幼児期から青年期、高齢者までに及ぶ発達のメカニズムに関して、認知や学習の発達領域に重点を置き、発達心理学の観点から理解を深める。特に、学部段階での学問的知識に基づき、生理学的基礎論にも立脚した理論的な考察を中心に、現代的課題を取り上げながら論を進める。展開においては、諸外国の文献をも含めつつ、論理的・科学的に理解を深めるように心がける。  |       |       |               |           |     |
| 達 成 目 標               | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における人間の発達環境とその課題</li> <li>2. 今日的な発達課題の意義ととらえ方</li> <li>3. 子どもの発達と現代的課題</li> <li>4. 青年期の発達と現代的課題</li> <li>5. 成人期・社会における発達心理学的課題</li> </ol>   |       |       |               |           |     |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項  | 学部段階での発達心理学の履修が望ましい。出席して積極的に参加すること。<br>授業方法①面接授業のみ  |       |       |               |           |     |
| 授 業 計 画               | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の発達の特徴と課題 (目標 1)</li> <li>2. 現代社会における人間の発達と環境の問題 (目標 1)</li> <li>3. 発達を促進する要因に関する現代的理解 (目標 2)</li> <li>4. 今日的発達課題の意義とその内容についての検討 (目標 2)</li> <li>5. 発達段階に関する認識と現代化への課題 (目標 2)</li> <li>6. 発達過程における個性化と社会化の意義 (目標 2)</li> <li>7. 人間発達における初期環境の理解と評価 (目標 2)</li> <li>8. 乳幼児期の発達と愛着研究の進展 (目標 3)</li> <li>9. 幼児期の自我発達のメカニズムと自己中心性 (目標 3)</li> <li>10. 児童期の発達と徒党時代のもたらす意味 (目標 3)</li> <li>11. 人間の思考の発達と情緒の統制との関係 (目標 4)</li> <li>12. 青年期への飛翔と現代社会の複雑・多様 (目標 4)</li> <li>13. 少子化時代の心理的離乳と脱衛星化の課題 (目標 4)</li> <li>14. 現代社会における発達障害の理解と実践的課題 (目標 5)</li> <li>15. 高齢化社会における生活の基盤と自己実現の課題 (目標 5)</li> </ol> |       |       |               |           |     |
| 成 績 評 価 基 準           | 評価の基準：100 点満点とし、60 点以上を合格とする。<br>評価の方法：レポート (70%) 及び授業中の取り組みの態度 (30%) について総合的に評価する。   |       |       |               |           |     |
| アクティブラーニング            | ディスカッション、プレゼンテーション  |       |       |               |           |     |
| フィードバックの方法            | レポートについてコメントする。   |       |       |               |           |     |
| 時 間 外 の<br>学 習 について   | 予習：予め配布された資料 (次回講義の為の) に基づいてノートを作成する。90 分。<br>復習：作成済みのノートへの講義中の記入について再度確認・点検し、整理する。90 分。  |       |       |               |           |     |
| 教材にかかわる<br>情 報        | テキスト：特になし (適宜資料を配付する)。<br>参 考 書：“The Psychology of Childhood” 1992 Mitchell,P.<br>The Falmer Press<br>「発達理解の心理学」(堂野・堂野、2009)、その他は、その都度、指示する。<br>参考資料等：  |       |       |               |           |     |
| 担当者からの<br>メ ッ セ ー ジ 等 | “A man can lead a horse to water, but ten can’ t make him drink “   |       |       |               |           |     |
| 備 考                   |   |       |       |               |           |     |

|                            |  |       |       |               |           |     |
|----------------------------|--|-------|-------|---------------|-----------|-----|
| 授 業 科 目 名                  | 発達臨床心理学演習  | 教 員 名 | 堂野 佐俊 | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選 択 |
| ナンバリングコード                  | UM5-0008-02200   |       | (単独)  |               | 幼 稚 園 教 諭 | 選 択 |
| 授 業 形 態                    | 演習   | 年次配当  | 1年後期  | 修 了 要 件       |           | 選 択 |
| 単 位 数                      | 2  |       |       |               |           |     |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 幼稚園及び小学校   |       |       |               |           |     |
| 授業のテーマ                     | 現代社会における人間の適応の問題に焦点を当て、子どもから高齢者まで各発達段階ごとに分析して、家庭・学校・地域に密着した立場から指導や支援のあり方について考察する   |       |       |               |           |     |
| 授 業 概 要                    | 激変する現代生活で、ストレスや不安など、適応に困難を示す人間は多くなってきている。こうした問題に焦点を当て、その原理や要因などについて明らかにし、発達段階ごとに視点を設定して対応や方策について論考する。中でも、家庭・学校・地域など身近な場面で、子どもから高齢者・障害者の視点をも含めた生涯発達の観点に立ち、いじめ、不登校、虐待、孤立、適応障害等、臨床心理学的な人間理解の態度を修得することは重要なポイントになる。授業の展開においては、諸外国の文献なども含め、最新のデータ・資料に基づいて論考する。   |       |       |               |           |     |
| 達 成 目 標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代生活における適応の問題について理解する</li> <li>2. 各発達段階における臨床的視点について理解する。</li> <li>3. 学校における心理臨床的課題について理解する。</li> <li>4. 家庭・社会における心理臨床的問題について理解する。</li> <li>5. ストレス及びストレス対処について理解する。</li> </ol>  |       |       |               |           |     |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | 特になし。授業に出席して、主体的に参加すること。<br>授業方法①面接授業のみ  |       |       |               |           |     |
| 授 業 計 画                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の発達理解と臨床的視点の意義 (目標 1)</li> <li>2. 発達臨床心理学的アプローチの立場と発達支援 (目標 1)</li> <li>3. 「孤立化社会」と「ストレス社会」の今日的課題 (目標 1)</li> <li>4. 現代社会における発達課題の再検討 (目標 2)</li> <li>5. 乳幼児期の親子関係と基本的信頼感に関する研究 (目標 2)</li> <li>6. 養育態度と欲求不満耐性に関する研究 (目標 4)</li> <li>7. 劣等感と自己効力感と適応に関する研究 (目標 4)</li> <li>8. 徒党時代と競争社会と仲間の関係に関する研究 (目標 3)</li> <li>9. 「いじめ」に関する心理臨床的検討 (目標 3)</li> <li>10. 「不登校」に関する心理臨床的検討 (目標 3)</li> <li>11. 「虐待」に関する心理臨床的検討 (目標 3)</li> <li>12. 「キレル・ムカつく」と対人関係能力の発達課題 (目標 4)</li> <li>13. 疾風怒濤の時代の適応と思春期の発達に関する研究 (目標 4)</li> <li>14. 現代社会における心理的ストレスに関する研究 (目標 5)</li> <li>15. ストレス対処とストレス・マネジメントに関する理解 (目標 5)</li> </ol> |       |       |               |           |     |
| 成績評価基準                     | 評価の基準：100点満点とし、60点以上を合格とする。<br>評価の方法：レポート(70%)及び授業中の取り組みの態度(30%)について総合的に評価する。  |       |       |               |           |     |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、  |       |       |               |           |     |
| フィードバックの方法                 | レポートにコメントをつける。   |       |       |               |           |     |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | 予習：予め配布された資料(次回講義の為の)に基づいてノートを作成する。90分。<br>復習：作成済みのノートへの講義中の記入について再度確認・点検し、整理する。90分。   |       |       |               |           |     |
| 教材にかかわる<br>情 報             | テキスト：特になし。毎回テーマに沿った資料を指示する<br>参 考 書：「現代社会におけるストレスと適応の生涯発達心理学」(堂野佐俊) 風間書房 1999<br>参考資料等：  |       |       |               |           |     |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 | “A man can lead a horse to water, but ten can't make him drink “   |       |       |               |           |     |
| 備 考                        |  |       |       |               |           |     |

|                            |   |       |                 |               |           |  |
|----------------------------|---|-------|-----------------|---------------|-----------|--|
| 授 業 科 目 名                  | 教員のメンタルヘルス特論  | 教 員 名 | 名 島 潤 慈<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 |  |
| ナンバリングコード                  | UM6-0009-00000  |       |                 |               | 幼 稚 園 教 諭 |  |
| 授 業 形 態                    | 講 義   | 年次配当  | 2年後期            | 修 了 要 件       | 選 択       |  |
| 単 位 数                      | 2   |       |                 |               |           |  |
| 授 業 の テ ー マ                | 学校教員、メンタルヘルス（精神健康）、ストレス、問題行動、精神疾患、危機、復職支援   |       |                 |               |           |  |
| 授 業 概 要                    | 学校現場で働く教員にとって、心の健康さを保つことは大変重要である。心の健康さが失われてくると種々の問題行動や症状が頻発し、場合によれば休職や退職に追い込まれてしまう。この授業では、心の健康さを保つための方策を探求する。   |       |                 |               |           |  |
| 達 成 目 標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のメンタルヘルス不調の現状と課題について理解する。</li> <li>2. 教員のストレスと問題行動、精神疾患などについて理解する。</li> <li>3. ストレスマネジメントのやり方を習得する。</li> <li>4. 職場内外の社会資源（医療・相談機関）について理解を深める。</li> <li>5. 復職支援プログラムについて理解する。</li> </ol>   |       |                 |               |           |  |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接授業のみ   |       |                 |               |           |  |
| 授 業 計 画                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のメンタルヘルス不調の現状と課題（目標 1）</li> <li>2. 教員の倫理と問題行動（信用失墜行為）・倫理教育（目標 1, 2）</li> <li>3. 学校におけるストレス—新任教師の場合（目標 2）</li> <li>4. 学校におけるストレス—問題のある生徒・保護者・管理職との関係（目標 2）</li> <li>5. 教員の家庭生活におけるストレス（目標 2）</li> <li>6. 教員の適応障害の問題と対応（目標 2）</li> <li>7. 教員のうつ病の問題と対応（目標 2）</li> <li>8. 教員の自殺の問題と対応（目標 2）</li> <li>9. 教員の心身症の問題と対応（目標 2）</li> <li>10. 教員の中年危機の問題と対応（目標 2）</li> <li>11. セルフケアとストレスマネジメント①（目標 3）</li> <li>12. セルフケアとストレスマネジメント②（目標 3）</li> <li>13. セルフケアとストレスマネジメント③（目標 3）</li> <li>14. 職場内・職場外資源の活用（目標 4）</li> <li>15. 教員の復職支援プログラムの概要（病気休暇取得・休職発令から復職までを含む）（目標 5）</li> </ol> |       |                 |               |           |  |
| 成 績 評 価 基 準                | <p>評価の基準：教員のメンタルヘルスに関する専門的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。</p> <p>評価の方法：レポート（70点） 授業中の態度・取り組みの姿勢（30点）</p>   |       |                 |               |           |  |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、   |       |                 |               |           |  |
| フィードバックの方法                 | 課題回収後に解説を行う。  |       |                 |               |           |  |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | <p>予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。90分。</p> <p>復習：自分なりのまとめのノートを作る。90分。</p>  |       |                 |               |           |  |
| 教 材 に か か わ る<br>情 報       | <p>テキスト： 特になし。学会誌の論文など、必要な資料はそのつど配布する。</p> <p>参 考 書： 文部科学省・教職員のメンタルヘルス対策検討会議（2013）教職員のメンタルヘルス対策について（最終まとめ）</p> <p>参考資料等： 授業のなかで適宜紹介する。</p>  |       |                 |               |           |  |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 | ストレスマネジメントのやり方（ストレス対処スキル）については実際に練習していただきます。  |       |                 |               |           |  |
| 備 考                        |   |       |                 |               |           |  |

|                            |  |       |               |               |           |  |
|----------------------------|--|-------|---------------|---------------|-----------|--|
| 授 業 科 目 名                  | 人権教育研究   | 教 員 名 | 香川 智弘<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 |  |
| ナンバリングコード                  | UM6-0010-00000   |       |               |               | 幼 稚 園 教 諭 |  |
| 授 業 形 態                    | 演習   | 年次配当  | 2年後期          | 修 了 要 件       | 選 択       |  |
| 単 位 数                      | 2  |       |               |               |           |  |
| 授業のテーマ                     | 子どもの人権 いじめ 体罰 虐待   |       |               |               |           |  |
| 授 業 概 要                    | 学校現場における児童によるいじめ、教員による体罰、セクハラ、家庭における虐待そして子どもの自殺など子どもの人権を侵害する事例は後を絶たない。このような具体的事例を学生自ら判例や文献などから収集し、ともに分析考察し、その対処法防止法を論理的実践的に研究する。   |       |               |               |           |  |
| 達 成 目 標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの人権について知る。</li> <li>2. 子どもの人権侵害事例を知る。</li> <li>3. 子どもの人権の防止策対処策を研究する。</li> </ol>  |       |               |               |           |  |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接授業のみ  |       |               |               |           |  |
| 授 業 計 画                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国憲法の目的、基本理念、基本原理 役割 第十章 (目標 1)</li> <li>2. 日本国憲法の人権総則規定 (目標 1)</li> <li>3. 教育基本法 (目標 1)</li> <li>4. 子どもの権利条約(その1) (目標 1)</li> <li>5. 子どもの権利条約(その2) (目標 1)</li> <li>6. 事例研究① (目標 1,2,3)</li> <li>7. 事例研究② (目標 1,2,3)</li> <li>8. 事例研究③ (目標 1,2,3)</li> <li>9. 事例研究④ (目標 1,2,3)</li> <li>10. 事例研究⑤ (目標 1,2,3)</li> <li>11. 事例研究⑥ (目標 1,2,3)</li> <li>12. 事例研究⑦ (目標 1,2,3)</li> <li>13. 事例研究⑧ (目標 1,2,3)</li> <li>14. 文部科学省「人権教育の指導方法等の在り方について(第三次とりまとめ)」をもとに (目標 1,2,3)</li> <li>15. まとめ (目標 1,2,3)</li> </ol> |       |               |               |           |  |
| 成 績 評 価 基 準                | <p>評価の基準：授業中の発言 30%、レポート 70%</p> <p>評価の方法：評価基準に基づき総合的に評価する。</p>  |       |               |               |           |  |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション   |       |               |               |           |  |
| フィードバックの方法                 | 課題を回収後、コメントをつけて返却する。   |       |               |               |           |  |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | <p>予習：参考書をもとに、事例について詳細に情報収集し分析しておく。90分。</p> <p>復習：学修した内容をもとに教員の関わり方を考察する。90分。</p>  |       |               |               |           |  |
| 教材にかかわる<br>情 報             | <p>テキスト：香川智弘「憲法講義」</p> <p>参 考 書：「法律・判例で考える生徒指導」学事出版</p> <p>参考資料等：</p>  |       |               |               |           |  |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 | 世の中の動向、ことに子どもに関するニュースに関心をもつ  |       |               |               |           |  |
| 備 考                        |  |       |               |               |           |  |

|              |  |      |               |           |       |    |
|--------------|--|------|---------------|-----------|-------|----|
| 授業科目名        | 福祉・教育特論  | 教員名  | 佐藤 真澄<br>(単独) | 免許・資格との関係 | 小学校教諭 | 選択 |
| ナンバリングコード    | UM6-0011-02000   |      |               |           | 幼稚園教諭 |    |
| 授業形態         | 講義   | 年次配当 | 2年後期          | 修了要件      | 選択    |    |
| 単位数          | 2  |      |               |           |       |    |
| 教科及び教職に関する科目 | 幼稚園  |      |               |           |       |    |
| 授業のテーマ       | 社会福祉の思想、理念、制度 福祉教育   |      |               |           |       |    |
| 授業概要         | 社会福祉の思想、理念や制度の変遷について体系的に学ぶ。子どもを取り巻く現状について取り上げ、社会福祉制度の課題や社会福祉実践の取り組みについて討議する。<br>また、子どもに教育するという立場から、「福祉とは何か」について討議する。   |      |               |           |       |    |
| 達成目標         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の思想、理念、制度の変遷について理解できる。</li> <li>2. 幼児・児童を取り巻く現状について、社会福祉の観点から理解できる。</li> <li>3. ライフステージに応じた社会福祉の課題や社会福祉実践の取り組みについて理解できる。</li> <li>4. 現代社会における福祉課題や求められる支援について、自分の考えを述べることができる。</li> <li>5. 福祉教育において大切にすべきことについて、自分の考えを述べるができる。</li> </ol>  |      |               |           |       |    |
| 履修条件・注意事項    | ①面接授業のみ  |      |               |           |       |    |
| 授業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション「社会福祉」という考え方ー受講前の自分の考えを整理する (目標 4)</li> <li>2. 社会福祉の基礎概念① 社会福祉の基本理念 (目標 1)</li> <li>3. 社会福祉の基礎概念② ライフステージと社会福祉 (目標 1)</li> <li>4. 社会福祉の基礎概念③ 社会福祉の援助原理と専門性 (目標 1)</li> <li>5. 社会福祉の制度① 社会福祉制度の歴史的展開 (目標 1)</li> <li>6. 社会福祉の制度② 措置制度から契約制度への転換 (目標 1)</li> <li>7. 社会福祉の制度③ 社会福祉の仕組みと運営 (目標 1)</li> <li>8. 社会福祉を取り巻く状況① 少子・高齢化/家族機能と社会福祉との関係 (目標 2,3)</li> <li>9. 社会福祉を取り巻く状況② 地域社会の機能と地域福祉 (目標 2,3)</li> <li>10. 社会福祉を取り巻く状況③ 障害児(者)福祉と特別支援教育 (目標 2,3)</li> <li>11. 小括：現代社会における福祉課題と求められる支援のあり方 (目標 2,3,4)</li> <li>12. 【演習】子どもに「福祉」を教える - テーマ選定 (目標 5)</li> <li>13. 【演習】子どもに「福祉」を教える - 教材作成 (目標 5)</li> <li>14. 【演習】子どもに「福祉」を教える - プレゼンテーション (目標 5)</li> <li>15. 総括：福祉教育において大切にすべきこととは (目標 5)</li> </ol> |      |               |           |       |    |
| 成績評価基準       | <p>評価の基準：社会福祉に関する基礎的な事柄について理解したうえで、その内容を教材化し、説明できる。</p> <p>評価の方法：授業への参加度 50% 演習課題 50%</p>  |      |               |           |       |    |
| アクティブラーニング   | ディスカッション、プレゼンテーション   |      |               |           |       |    |
| フィードバックの方法   | 課題を与え、コメントをつけて返却する。  |      |               |           |       |    |
| 時間外の学習について   | <p>予習：事前配布した資料をよく読む。90分。</p> <p>復習：授業内容について資料をよく読む。90分</p>   |      |               |           |       |    |
| 教材にかかわる情報    | <p>テキスト：特になし</p> <p>参考書：都度適宜紹介する。</p> <p>参考資料等：</p>  |      |               |           |       |    |
| 担当者からのメッセージ等 |  |      |               |           |       |    |
| 備考           |  |      |               |           |       |    |

|              |  |      |               |               |       |  |
|--------------|--|------|---------------|---------------|-------|--|
| 授業科目名        | 教育と芸術  | 教員名  | 河北 邦子<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小学校教諭 |  |
| ナンバリングコード    | UM6-0012-00000   |      |               |               | 幼稚園教諭 |  |
| 授業形態         | 講義   | 年次配当 | 2年後期          | 修了要件          | 選択    |  |
| 単位数          | 2  |      |               |               |       |  |
| 授業のテーマ       | デューイの教育論と芸術論をつなぐ   |      |               |               |       |  |
| 授業概要         | 本授業科目は当面、「デューイは芸術をどのように論じ、芸術のもつ教育力をどのようにとらえているか」という問いをもって、デューイ著・栗田 修訳『経験としての芸術』を中心に、デューイの芸術論・教育論にかかわりのある我が国のいくつかの著作を読み取っていく。また、デューイ芸術論・教育論と音楽教育実践事例をつないで考察することを試みる。  |      |               |               |       |  |
| 達成目標         | 1. デューイの芸術論を理解する。<br>2. 芸術と教育のかかわりをとらえる視点、問題を把握する。<br>3. 小学校音楽科授業をデューイの芸術論の観点から分析する。   |      |               |               |       |  |
| 履修条件・注意事項    | ①面接授業のみ  |      |               |               |       |  |
| 授業計画         | 1. 森 昭『経験主義の教育原理』－「経験主義の芸術哲学」 (目標 1)<br>2. 牧野宇一郎『デューイの価値観の研究』－「一つの経験と芸術的価値」 (目標 1)<br>3. 牧野宇一郎『デューイ教育観の研究』－「芸術と教育」 (目標 1,2)<br>4. デューイ著・栗田 修訳『経験としての芸術』－「第1章、第2章」 (目標 1)<br>5. 同 上 書 －「第3章、第4章」 (目標 1)<br>6. 同 上 書 －「第5章、第6章」 (目標 1)<br>7. 同 上 書 －「第7章、第8章」 (目標 1)<br>8. 同 上 書 －「第9章、第10章」 (目標 1)<br>9. 同 上 書 －「第11章、第12章」 (目標 1)<br>10. 同 上 書 －「第13章、第14章」 (目標 1)<br>11. 上野正道『学校の公共性と民主主義』－「美的経験の再構成による教育」 (目標 1,2)<br>12. 小学校音楽教育実践の分析と考察 (目標 3)<br>13. 佐藤 学・今井康雄『子どもたちの想像力を育む』<br>－「想像力と創造性の教育へ」 (目標 1,2)<br>14. 同 上 書 －「子どもの美的経験の意味」 (目標 1,2)<br>15. 同 上 書 －「第Ⅲ部 アート教育の新展開」 (目標 1,2) |      |               |               |       |  |
| 成績評価基準       | 評価の基準：テキスト内容の解釈<br>評価の方法：授業中の発言・議論30%、レポート70%  |      |               |               |       |  |
| アクティブラーニング   | ディスカッション、プレゼンテーション   |      |               |               |       |  |
| フィードバックの方法   | 課題を与え、コメントをつけて返却する。  |      |               |               |       |  |
| 時間外の学習について   | 予習：次回のテキスト該当箇所を読む 90分。<br>復習：ノート提出・点検 90分。   |      |               |               |       |  |
| 教材にかかわる情報    | テキスト：デューイ著・栗田 修訳『経験としての芸術』晃洋書房、上野正道著『学校の公共性と民主主義』東京大学出版会、佐藤 学・今井康雄編著『子どもたちの想像力を育む』東京大学出版会<br>参考書：デューイ・宮原誠一訳『学校と社会』岩波文庫、デューイ・松野安男訳『民主主義と教育』岩波文庫、デューイ・植木 豊訳『公衆とその問題』ハーベスト社 他<br>参考資料等：   |      |               |               |       |  |
| 担当者からのメッセージ等 |  |      |               |               |       |  |
| 備考           |  |      |               |               |       |  |

|              |  |      |               |           |       |    |
|--------------|--|------|---------------|-----------|-------|----|
| 授業科目名        | 特別支援教育特論   | 教員名  | 松田 信夫<br>(単独) | 免許・資格との関係 | 小学校教諭 | 選択 |
| ナンバリングコード    | UM5-0013-02200   |      |               |           | 幼稚園教諭 | 選択 |
| 授業形態         | 講義   | 年次配当 | 1年後期          | 修了要件      |       | 選択 |
| 単位数          | 2  |      |               |           |       |    |
| 教科及び教職に関する科目 | 幼稚園及び小学校   |      |               |           |       |    |
| 授業のテーマ       | 特別支援教育、発達障害、学習面や行動面のアセスメントと支援  |      |               |           |       |    |
| 授業概要         | 本科目では、特に通常の学校における特別支援教育に焦点を当て、その現状や最新の動向を理解するとともに、通常の学級にも在籍しているLDやADHD、高機能自閉症等の発達障害のある幼児児童生徒の特性と支援方法について学ぶ。その上で、具体的な事例を挙げ、幼児児童生徒を支援するために必要な情報を収集するとともに支援方法を検討し、他者と協議しながら個別の指導計画を作成する演習を行う。   |      |               |           |       |    |
| 達成目標         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通常の学校における特別支援教育の現状や最新の動向について理解している。</li> <li>2. LDやADHD、高機能自閉症等の発達障害のある幼児児童生徒の特性と支援方法について理解している。</li> <li>3. 必要な情報を収集し、個別の指導計画を作成することができる。</li> <li>4. 他者との協議を通して、幼児児童生徒への支援を考えることができる。</li> </ol>   |      |               |           |       |    |
| 履修条件・注意事項    | ①面接授業のみ  |      |               |           |       |    |
| 授業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション (目標 1)</li> <li>2. 通常の学校における特別支援教育 (目標 1)</li> <li>3. 事例検討① 情報収集と支援方法の検討 (目標 4)</li> <li>4. 発達障害のある幼児児童生徒の学習面の困難 (目標 2)</li> <li>5. 発達障害のある幼児児童生徒の学習面のアセスメント (目標 2)</li> <li>6. 発達障害のある幼児児童生徒の学習面の支援 (目標 2)</li> <li>7. 事例検討② 情報収集と支援方法の検討 (目標 4)</li> <li>8. 発達障害のある幼児児童生徒の行動面の困難 (目標 2)</li> <li>9. 発達障害のある幼児児童生徒の行動面のアセスメント (目標 2)</li> <li>10. 発達障害のある幼児児童生徒の行動面の支援 (目標 2)</li> <li>11. 個別の指導計画の意義と内容 (目標 3)</li> <li>12. 事例検討③ 情報収集と支援方法の検討、および個別の指導計画の作成 (目標 3,4)</li> <li>13. 事例検討④ 情報収集と支援方法の検討、および個別の指導計画の作成 (目標 3,4)</li> <li>14. 通常の学級における授業のユニバーサルデザイン (目標 1)</li> <li>15. インクルーシブ教育と合理的配慮 (目標 1)</li> </ol> |      |               |           |       |    |
| 成績評価基準       | <p>評価の基準：達成目標を満たしているか</p> <p>評価の方法：レポート (50点) 授業中の態度・取り組みの姿勢 (50点)</p>   |      |               |           |       |    |
| アクティブラーニング   | ディスカッション、プレゼンテーション   |      |               |           |       |    |
| フィードバックの方法   | 課題を出し、コメントを付けて返却する。  |      |               |           |       |    |
| 時間外の学習について   | <p>予習：資料を読んでおく。90分。</p> <p>復習：関連する参考書籍を読む。90分</p>  |      |               |           |       |    |
| 教材にかかわる情報    | <p>テキスト：特に使用しない</p> <p>参考書：講義の中で、適宜、参考資料や補足資料を配布する。</p> <p>参考資料等：</p>  |      |               |           |       |    |
| 担当者からのメッセージ等 |  |      |               |           |       |    |
| 備考           |  |      |               |           |       |    |

|                            |  |       |               |               |           |  |
|----------------------------|--|-------|---------------|---------------|-----------|--|
| 授 業 科 目 名                  | 東アジア文化比較論  | 教 員 名 | 岡村 康夫<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 |  |
| ナンバリングコード                  | UM5-0014-00000   |       |               |               | 幼 稚 園 教 諭 |  |
| 授 業 形 態                    | 講義   | 年次配当  | 1年後期          | 修 了 要 件       | 選 択       |  |
| 単 位 数                      | 2  |       |               |               |           |  |
| 授 業 の テ ー マ                | インドにおいて発祥し、中国、日本へと伝わった仏教を中心に、東アジアの文化・思想について考える。  |       |               |               |           |  |
| 授 業 概 要                    | 大乘仏教思想の東アジアにおける受容、展開およびその意義について考える。  |       |               |               |           |  |
| 達 成 目 標                    | 日本の文化・思想の起源を考察し、その文化・思想の現代における新たな展望を開く。  |       |               |               |           |  |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | 基本は講義形式ではあるが、授業中に受講者の発表・討論を取り入れる。<br>授業形態①面接授業のみ   |       |               |               |           |  |
| 授 業 計 画                    | 1. 仏陀の教えについて<br>2. 原始仏教について<br>3. 大乘仏教のインドにおける発祥について<br>4. 大乘仏教の中国への伝播について<br>5. 大乘仏教の中国における受容について<br>6. 日本への仏教伝播について<br>7. 奈良時代の仏教について<br>8. 平安時代の仏教について<br>9. 鎌倉時代の日本仏教について(1)<br>10. 鎌倉時代の日本仏教について(2)<br>11. 鎌倉時代の日本仏教について(3)<br>12. 室町時代以降の日本仏教の展開について<br>13. 江戸時代の日本仏教について<br>14. 明治以降の日本仏教について<br>15. 現代における日本仏教について<br>レポート |       |               |               |           |  |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の方法：最終レポート 50%、授業中の発言・発表 50%、<br>評価の基準：達成目標に到達したか  |       |               |               |           |  |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション   |       |               |               |           |  |
| フィードバックの方法                 | 毎回の議論・ノートの内容について、次回の授業のなかで確認、議論、まとめを繰り返す。  |       |               |               |           |  |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | 予習：次回のテキスト該当箇所を読む (90分)<br>復習：資料確認およびノート整理、提出・点検 (90分)   |       |               |               |           |  |
| 教材にかかわる<br>情 報             | テキスト：特になし<br>参 考 書：長尾雅人著『仏教の源流』中公文庫、上田義文著『大乘仏教の思想』レクルス文庫<br>参考資料等：法然著『選択本願念仏集』岩波文庫、親鸞著『親鸞和讃集』岩波文庫  |       |               |               |           |  |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 | 大乘仏教思想を学ぶことを通して東洋文化の根底に流れるものを再確認して行きたいと思います。   |       |               |               |           |  |
| 備 考                        |  |       |               |               |           |  |

|                            |  |       |        |               |           |    |
|----------------------------|--|-------|--------|---------------|-----------|----|
| 授 業 科 目 名                  | 幼児教育特論   | 教 員 名 | 松村 納央子 | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 必修 |
| ナンバリングコード                  | UM5-0015-01000   |       | (単独)   |               | 幼 稚 園 教 諭 |    |
| 授 業 形 態                    | 講義   | 年次配当  | 1 年前期  | 修 了 要 件       | 選 択       |    |
| 単 位 数                      | 2  |       |        |               |           |    |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 幼稚園  |       |        |               |           |    |
| 授業のテーマ                     | 幼稚園教育を支える思想・原理および指導方法に関する専門的な認識の修得   |       |        |               |           |    |
| 授 業 概 要                    | 幼児教育（幼稚園）の思想や理念、歴史に関する専門的な知識と方法を理解する。  |       |        |               |           |    |
| 達 成 目 標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の専門的な知識及び理論、思想・理念・歴史を時代背景とともに関係的に理解する。</li> <li>2. 幼児教育現場での指導をする際の理論や技術を支える原理を理解する。</li> <li>3. 就学前教育施設におけるアプローチカリキュラム・小学校におけるスタートカリキュラムの具体例を検討考察する。</li> <li>4. 「環境を通して」、「体験を通して」、「生活を通して」などの幼児教育の原則を習得する。</li> </ol>   |       |        |               |           |    |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接授業のみ  |       |        |               |           |    |
| 授 業 計 画                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コメニウス、ペスタロッチ、フレーベルの教育思想－「子ども」の内在的な力をどう捉えたか（目標 1, 2）</li> <li>2. フレーベル『人間の教育』（1826）にみる幼児教育の萌芽（目標 1, 2）</li> <li>3. フレーベルにおける自然（目標 1, 2）</li> <li>4. フレーベル『母の歌と愛撫の歌』（1844）の成立背景（目標 1, 2）</li> <li>5. フレーベル『母の歌と愛撫の歌』の読解(1) 執筆に至る経緯（目標 1, 2）</li> <li>6. フレーベル『母の歌と愛撫の歌』の読解(2) 図像の意義（目標 1, 2）</li> <li>7. フレーベル『母の歌と愛撫の歌』の読解(3) 歌（メロディ）の意義（目標 1, 2）</li> <li>8. フレーベルの「幼稚園」（目標 1, 2）</li> <li>9. フレーベルの「媒介学校」構想（目標 1, 2, 3）</li> <li>10. フレーベル幼稚園教育の受容形態(1) ヨーロッパを中心に（目標 1, 2, 3）</li> <li>11. フレーベル幼稚園教育の受容形態(2) 日本を中心に（目標 1, 2, 3）</li> <li>12. 現在世界的な影響をもつ就学前教育の形態Ⅰ－「レッジョ・エミリア」の概要（目標 2, 3, 4）</li> <li>13. 現在世界的な影響をもつ就学前教育の形態Ⅱ－「レッジョ・エミリア」のドキュメンテーション（目標 2, 3, 4）</li> <li>14. 現在世界的な影響をもつ就学前教育の形態Ⅲ－「レッジョ・エミリア」と生涯学習との関連（目標 2, 3, 4）</li> <li>15. これからの幼児教育の展望（目標 1, 2, 3, 4）</li> </ol> |       |        |               |           |    |
| 成 績 評 価 基 準                | <p>評価の基準：幼児教育に関する専門的な事柄を理解し、自分の考えとともに説明できる。</p> <p>配布資料（史料）について調査する。</p> <p>評価の方法：講義での発表討論（30%）、自主調査活動・レポート（70%）</p>   |       |        |               |           |    |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション   |       |        |               |           |    |
| フィードバックの方法                 | 課題を回収後、コメントを付けて返却する。   |       |        |               |           |    |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | <p>予習：事前に提示した資料（史料）を読む。90分</p> <p>復習：発展的な課題について調査する。90分</p>  |       |        |               |           |    |
| 教材にかかわる<br>情 報             | <p>テキスト：小笠原道雄『原典資料の読解によるフリードリヒ・フレーベルの研究』福村出版、2021<br/>リナルディ、C.（里見実[訳]）『レッジョ・エミリアと対話しながら』ミネルヴァ書房、2019</p> <p>参 考 書：ロックシュタイン、M.（小笠原道雄[監訳]、木内陽一・松村納央子[訳]）『遊びが子どもを育てる－フレーベルの〈幼稚園〉と〈教育遊具〉』福村出版、2014</p> <p>参考資料等：</p>   |       |        |               |           |    |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 | 講義外での自主的な調査研究活動も進めてほしい。  |       |        |               |           |    |
| 備 考                        |  |       |        |               |           |    |

|                            |  |       |      |               |           |     |
|----------------------------|--|-------|------|---------------|-----------|-----|
| 授 業 科 目 名                  | 小学校授業実践特論  | 教 員 名 |      | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 必修  |
| ナンバリングコード                  | UM5-0016-00100   |       |      |               | 幼 稚 園 教 諭 |     |
| 授 業 形 態                    | 講義   | 年次配当  | 1年後期 | 修 了 要 件       |           | 選 択 |
| 単 位 数                      | 2  |       |      |               |           |     |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 小学校  |       |      |               |           |     |
| 授業のテーマ                     | 学習規律、授業の理論と実践  |       |      |               |           |     |
| 授 業 概 要                    | 学習規律を理解し、授業の実践的指導力を修得する。   |       |      |               |           |     |
| 達 成 目 標                    | 1. 小学校の教育課程の特質と教師の役割について理解する。<br>2. 小学校における授業不成立の状況を踏まえ、学習規律の必要性について考える。<br>3. 幼小連携、スタートカリキュラムについて理解する。<br>4. 学習が苦手な児童が、理解できる授業のあり方について考える。  |       |      |               |           |     |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接授業のみ  |       |      |               |           |     |
| 授 業 計 画                    | 1. 小学校教育課程と教師の役割 (目標1)<br>2. 学級指導(班編成、教師の話し方等)。 (目標23)<br>3. 学級指導(登下校・安全指導、朝会・終会等の指導) (目標23)<br>4. 学級指導(班活動、学習準備、授業始まり、日直、給食の指導等)。 (目標23)<br>5. 授業指導(スタートカリキュラムの構想と実践)。 (目標23)<br>6. 学習規律①(教科書の音読、着席の仕方の指導)。 (目標234)<br>7. 学習規律②(一斉音読、発表の仕方、聞き方の指導)。 (目標234)<br>8. 学習規律③(発表の仕方、授業から家庭学習へ)。 (目標234)<br>9. 騒がしい学級の様子 (目標2)<br>10. 苦手な児童にとっての算数授業 (目標4)<br>11. 優れた実践例 (目標4)<br>12. 小学校での実地指導 主として観察 (目標4)<br>13. 小学校での実地指導 主として授業 (目標4)<br>14. 反省と考察 (目標1234)<br>15. 全体のまとめ。 (目標1234) |       |      |               |           |     |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の基準：達成目標に到達したかどうか<br>評価の方法：講義での発表討論(60%)、レポート(40%)   |       |      |               |           |     |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク   |       |      |               |           |     |
| フィードバックの方法                 | 課題についてコメントをつけて返却する。  |       |      |               |           |     |
| 時 間 外 の<br>学 習 について        | 予習：資料をよく読む。90分。<br>復習：発展的な課題について調べる。90分。   |       |      |               |           |     |
| 教材にかかわる<br>情 報             | テキスト：特になし<br>参 考 書：柴原昭徳『学習規律を育てる』、白松賢『学級経営の教科書』、中村健一『ブラック学級開き』<br>参考資料等：   |       |      |               |           |     |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 |  |       |      |               |           |     |
| 備 考                        |  |       |      |               |           |     |

|                            |  |       |      |               |           |     |
|----------------------------|--|-------|------|---------------|-----------|-----|
| 授 業 科 目 名                  | 小学校授業実践特論演習  | 教 員 名 |      | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選 択 |
| ナンバリングコード                  | UM6-0017-00200   |       |      |               | 幼 稚 園 教 諭 |     |
| 授 業 形 態                    | 演 習  | 年次配当  | 2年前期 | 修 了 要 件       |           | 選 択 |
| 単 位 数                      | 2  |       |      |               |           |     |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 小学校  |       |      |               |           |     |
| 授業のテーマ                     | アクティブラーニング、授業の理論と実践  |       |      |               |           |     |
| 授 業 概 要                    | アクティブラーニングの本質を理解し、授業の実践的指導力を修得する。  |       |      |               |           |     |
| 達 成 目 標                    | 1. アクティブラーニングの理論と特質について理解する。<br>2. 教材解釈、深い学びのあり方について考える。<br>3. 対話的な学びのあり方について実践的に考える。<br>4. 小学生児童を対象とした実地授業を行うことで、実践的指導力を修得する。   |       |      |               |           |     |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接授業のみ  |       |      |               |           |     |
| 授 業 計 画                    | 1. アクティブラーニングの背景（目標1）<br>2. アクティブラーニングの特質（目標1）<br>3. 教材「ごんぎつね」（目標23）<br>4. 教材「銀河鉄道の夜」（目標23）<br>5. 教材「走れメロス」（目標23）<br>6. 道徳「友達」（目標23）<br>7. 道徳「規則」<br>8. 指導案の作成<br>9. 模擬授業 国語<br>10. 模擬授業 道徳<br>11. 小学校における実地指導 国語、（目標4）<br>12. 小学校における実地指導 道徳、（目標4）<br>13. 分析、考察（目標1234）<br>14. アクティブラーニングの課題（目標1234）<br>15. まとめ（目標1234） |       |      |               |           |     |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の基準：到達目標に達成したかどうか。<br>評価の方法：演習活動での討論（60%）、ノート活動（40%）   |       |      |               |           |     |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク   |       |      |               |           |     |
| フィードバックの方法                 | 課題に対してコメントをつけて返却する。  |       |      |               |           |     |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | 予習：資料をよく読む。90分。<br>復習：発展的な課題について調べる。90分。   |       |      |               |           |     |
| 教材にかかわる<br>情 報             | テキスト：特になし<br>参 考 書：小針誠『アクティブラーニング』 渡部淳『アクティブラーニングとは何か』<br>佐藤公治『「アクティブ・ラーニング」は何をめざすか』<br>参考資料等：   |       |      |               |           |     |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 |  |       |      |               |           |     |
| 備 考                        |  |       |      |               |           |     |

|                            |   |       |               |               |           |     |
|----------------------------|---|-------|---------------|---------------|-----------|-----|
| 授 業 科 目 名                  | 表現活動指導演習  | 教 員 名 | 河北 邦子<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選 択 |
| ナンバリングコード                  | UM6-0018-00200  |       |               |               | 幼 稚 園 教 諭 |     |
| 授 業 形 態                    | 演 習   | 年次配当  | 2年前期          | 修 了 要 件       |           | 選 択 |
| 単 位 数                      | 2   |       |               |               |           |     |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 幼稚園及び小学校  |       |               |               |           |     |
| 授業のテーマ                     | 音楽科の教科特性、目標、指導内容、表現領域、鑑賞領域、授業記録分析   |       |               |               |           |     |
| 授 業 概 要                    | 幼児歌曲・小学校音楽科教材の楽曲を、音楽的側面と言語的側面から分析し、楽曲のもつ特徴を把握する。教育者としての表現力を養うと共に、子どもの発達を考慮しながら子どもが楽しむ要素について考える。初等教育現場の授業記録の分析を行い、教師の表現が子どもに与える影響、子ども同士の影響を理解し、表現・鑑賞領域の活動への展開方法について研究する。デジタル教科書の用い方を知ると共に、子どもに与える影響について分析する。   |       |               |               |           |     |
| 達 成 目 標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽教材を音楽的側面、言語的側面から歌唱教材を分析する力量を身につける。</li> <li>2. 楽曲の特徴を活かした表現について考え、表現力を身につける。</li> <li>3. 授業記録を通して、教師の表現（言語、歌唱・器楽・ピアノ伴奏等の音楽、身体、指揮、板書等）について分析研究する。</li> <li>4. デジタル教科書の活用の有効性を考える。</li> </ol>   |       |               |               |           |     |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | <p>授業内容に必要な楽器（リコーダー、鍵盤ハーモニカ等）を持参すること。</p> <p>授業方法①面接のみ</p>  |       |               |               |           |     |
| 授 業 計 画                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、楽曲を構成する要素を分析する意義について。<br/>幼児歌曲・小学校音楽科教材を拍子、速度の側面から分析し表現する。（目標 1,2）</li> <li>2. 幼児歌曲・小学校音楽科教材をリズムの側面から分析し表現する。（目標 1,2）</li> <li>3. 幼児歌曲・小学校音楽科教材をメロディーの側面から分析し表現する。（目標 1,2）</li> <li>4. 幼児歌曲・小学校音楽科教材を形式等の側面から分析し表現する。（目標 1,2）</li> <li>5. 幼児歌曲・小学校音楽科教材を歌詞の側面から分析し表現する。（目標 1,2）</li> <li>6. 歌唱教材を表現すると共に楽曲分析し、授業展開の在り方を考える。（目標 1,2）</li> <li>7. 歌唱教材の授業記録を、グループワークを通して分析する。（目標 3）</li> <li>8. 器楽教材を表現すると共に楽曲分析し、授業展開の在り方を考える。（目標 1,2）</li> <li>9. 器楽教材の授業記録を、グループワークを通して分析する。（目標 3）</li> <li>10. 音楽づくり教材を実践し、授業展開の在り方を考える。（目標 1,2）</li> <li>11. 音楽づくり教材の授業記録を、グループワークを通して分析する。（目標 3）</li> <li>12. 鑑賞教材を実践し、授業展開の在り方を考える。（目標 1,2）</li> <li>13. 鑑賞教材の授業記録を、グループワークを通して分析する。（目標 3）</li> <li>14. デジタル教科書の用い方を、実践を通して学ぶと共に有用性について考える。（目標 4）</li> <li>15. デジタル教科書を用いて実践する。授業の総括。（目標 1,2,3,4）レポート課題の提示。</li> </ol> |       |               |               |           |     |
| 成 績 評 価 基 準                | <p>評価の基準：知識の理解、獲得、思考・判断を通しての学び、及び授業内容への関心・意欲、態度、技能・表現を評価する。</p> <p>評価の方法：授業中の取り組み（配点 70%） 実践レポートの成果（配点 30%）</p>   |       |               |               |           |     |
| アクティブラーニング                 | プレゼンテーション、グループワーク   |       |               |               |           |     |
| フィードバックの方法                 | 課題に対してコメントをつける。   |       |               |               |           |     |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | <p>予習：次回の授業のテーマについて、資料を読む。90分</p> <p>復習：毎時間の演習内容を振り返る。発展的に調べる。90分</p>   |       |               |               |           |     |
| 教材にかかわる<br>情 報             | <p>テキスト：『幼稚園・保育所・家庭で 楽しくうたあそび123』河北邦子/坂本久美子編著 ミネルヴァ書房 出版（2017）、「小学生の音楽1～6年」教育芸術社、指導者用音楽デジタル教科書「小学生の音楽1～6」教育芸術社 DVD-ROM 版、授業の中で適宜プリント資料を配付する。</p> <p>参 考 書：『経験としての芸術』J.Dewey、他</p>   |       |               |               |           |     |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 | 教育現場のデータを用い、また歌唱や器楽、創作活動などの演習を伴いながら、講義を進めます。  |       |               |               |           |     |
| 備 考                        |   |       |               |               |           |     |

|                       |  |       |       |               |           |    |
|-----------------------|--|-------|-------|---------------|-----------|----|
| 授 業 科 目 名             | 歌唱表現特別演習   | 教 員 名 | 坂本久美子 | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選択 |
| ナンバリングコード             | UM5-0019-02000   |       | (単独)  |               | 幼 稚 園 教 諭 |    |
| 授 業 形 態               | 演習   | 年次配当  | 1年後期  | 修 了 要 件       | 選択        |    |
| 単 位 数                 | 2  |       |       |               |           |    |
| 教科及び教職に<br>関する科目      | 領域に関する専門的事項(幼稚園)   |       |       |               |           |    |
| 授業のテーマ                | 発声・歌い方・日本語の発音・多彩な歌・イメージ・教材研究   |       |       |               |           |    |
| 授 業 概 要               | 様々な歌唱教材について、文献をもとにその曲が生まれた時代背景や文化的側面を知り、言葉や音楽の分析を通してその曲への理解を深める。また、それらの歌唱活動を通して、個人の歌唱力の向上を目指すとともに、教育・保育現場での活用法について考える。   |       |       |               |           |    |
| 達 成 目 標               | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時代背景や文化的に成り立ちの異なる、幅広い歌唱教材を知る。</li> <li>2. 歌唱教材の特徴を、言葉や音楽の面から捉える。</li> <li>3. 歌の特色を活かす発声や歌唱表現を考える。</li> <li>4. 保育・教育現場での歌唱教材の活用法を知る。</li> </ol>   |       |       |               |           |    |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項  | ①面接授業のみ  |       |       |               |           |    |
| 授 業 計 画               | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歌唱における自己課題の分析 (目標 3)</li> <li>2. 基礎的な発声法 (目標 3)</li> <li>3. 唱歌に関する研究 (目標 1,4)</li> <li>4. 唱歌の歌唱実践(日本語の発音と歌唱法) (目標 2,3)</li> <li>5. 童謡に関する研究 (目標 1,4)</li> <li>6. 童謡の歌唱実践(郷土の詩人の詩による子どもの歌) (目標 2,3)</li> <li>7. 日本の歌に関する研究 (目標 1,2)</li> <li>8. 世界の歌に関する研究 (目標 1,2)</li> <li>9. 歌唱と身体表現に関する研究 (目標 1,3)</li> <li>10. 音楽物語の創作:構成 (目標 2,4)</li> <li>11. 音楽物語の創作:選曲 (目標 1,2)</li> <li>12. 音楽物語の創作:朗読 (目標 3)</li> <li>13. 音楽物語の創作:場面と歌唱表現 (目標 2,3)</li> <li>14. 音楽物語の創作:心情と歌唱表現 (目標 2,3)</li> <li>15. 音楽物語の発表とレポート作成 (目標 2,3)</li> </ol> |       |       |               |           |    |
| 成績評価基準                | <p>評価の基準: 幅広い分野の歌唱教材の基礎的な理解と、それぞれにふさわしい初歩的な歌唱表現ができる</p> <p>評価の方法: 歌唱(60%)、レポート(20%)、授業への取り組み(20%)</p>  |       |       |               |           |    |
| アクティブラーニング            | ディスカッション、プレゼンテーション、  |       |       |               |           |    |
| フィードバックの方法            | 歌唱の発表後、講評を行う。  |       |       |               |           |    |
| 時 間 外 の<br>学 習 について   | <p>予習: 様々な分野の歌について関心を持ち、調べたり歌ったりしておく 90分。</p> <p>復習: 既習の歌は歌えるようにしておく 90分。</p>  |       |       |               |           |    |
| 教材にかかわる<br>情 報        | <p>テキスト: 特になし</p> <p>参 考 書: 適宜プリント配布</p> <p>参考資料等: バーバラ・コナブル著 『音楽家なら誰でも知っておきたい呼吸のこと』 (誠信書房)</p> <p>服部公一著 『歌ではじまる幼児教育』 (チャイルド本社)</p>  |       |       |               |           |    |
| 担当者からの<br>メ ッ セ ー ジ 等 | 日頃から積極的に歌うことを心掛け、ジャンルを問わず歌に興味を持ってほしいと思います。   |       |       |               |           |    |
| 備 考                   |  |       |       |               |           |    |

|              |   |      |               |               |       |    |
|--------------|---|------|---------------|---------------|-------|----|
| 授業科目名        | 歌唱文化特別研究  | 教員名  | 坂本久美子<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小学校教諭 | 選択 |
| ナンバリングコード    | UM6-0020-00200  |      |               |               | 幼稚園教諭 |    |
| 授業形態         | 演習  | 年次配当 | 2年前期          | 修了要件          |       | 選択 |
| 単位数          | 2   |      |               |               |       |    |
| 教科及び教職に関する科目 | 教科に関する専門的事項(小学校)  |      |               |               |       |    |
| 授業のテーマ       | 世界の歌唱・発声・教材研究   |      |               |               |       |    |
| 授業概要         | 幼児教育から小学校教育への接続の観点から、子ども達が幼児期に親しんできたあそびうたに着目し、日本や世界のあそびうたの実践から、音楽を通して異文化への理解を深める。また、小学校音楽科で取り上げられている歌を中心に、世界の様々な地域や分野の歌唱を取り上げ、その歌唱が成立してきた歴史的・文化的背景から、発声法の多様性や声の魅力を発見し、音楽科の歌唱指導や鑑賞の教材研究等、授業展開の構想に取り入れる視点を獲得する。   |      |               |               |       |    |
| 達成目標         | 1. 日本や世界のあそびうたを通して、音楽の特徴や遊びの形態から異文化理解を深める。<br>2. 世界の様々な歌唱から、その文化的背景や歌声の多様性を知る。<br>3. 世界の多様な歌について、小学校での歌唱や鑑賞の指導のための教材研究や、授業の展開に活かす視点を獲得する。   |      |               |               |       |    |
| 履修条件・注意事項    | ①面接授業のみ   |      |               |               |       |    |
| 授業計画         | 第1回：ガイダンスと自己の歌唱経験の振り返り(目標1,2,3)<br>第2回：日本のあそびうた(わらべうた)の実践と音楽的特徴(目標1,2,3)<br>第3回：外国のあそびうたの実践と文化的考察(目標1,2,3)<br>第4回：日本の国歌(目標1,2,3)<br>第5回：世界の国歌(目標1,2,3)<br>第6回：地声と裏声【ヨーデル・ブルガリアンヴォイス・ホーミー】(目標1,2,3)<br>第7回：宗教と歌唱【ゴスペル・声明】(目標1,2,3)<br>第8回：劇と歌唱(1)【オペラ・オペレッタ・ミュージカル】(目標1,2,3)<br>第9回：劇と歌唱(2)【歌舞伎・京劇・ケチャ】(目標1,2,3)<br>第10回：踊りと歌唱【フラメンコ・能】(目標1,2,3)<br>第11回：民謡における拍子やリズム(目標1,2,3)<br>第12回：教材研究(歌唱指導)(目標1,2,3)<br>第13回：指導のねらいと展開方法のプレゼンテーション(目標1,2,3)<br>第14回：教材研究(鑑賞指導)(目標1,2,3)<br>第15回：指導のねらいと展開方法のプレゼンテーション(目標1,2,3) |      |               |               |       |    |
| 成績評価基準       | 評価の基準：世界の歌唱文化について基礎的な知識を持ち、教材研究に活かせる。<br>様々な歌を通して、異文化理解の視点を持つ。<br>評価の方法：プレゼンテーション(60%) レポート(20%) 授業への取り組み(20%)  |      |               |               |       |    |
| アクティブラーニング   | ディスカッション、プレゼンテーション  |      |               |               |       |    |
| フィードバックの方法   | プレゼンテーション後、講評を行う。   |      |               |               |       |    |
| 時間外の学習について   | 予習：世界の様々な音楽に関心を持ち、授業計画に沿って調べたり聴いたりしておく。90分。<br>復習：各回の講義や演習内容を整理し、参考資料等を読み理解を深める。90分。  |      |               |               |       |    |
| 教材にかかわる情報    | テキスト：特になし。<br>参考書：適宜紹介する。<br>参考資料等：小泉文夫著『音楽の根源にあるもの』(平凡社)<br>小泉文夫著『子どもの遊びとうた』(草思社)<br>原良枝著『声の文化史』(成文堂)  |      |               |               |       |    |
| 担当者からのメッセージ等 | 講義だけでなく、可能な限り自身の声で実践しながら進めます。   |      |               |               |       |    |
| 備考           |   |      |               |               |       |    |

|                            |  |       |                 |               |           |    |
|----------------------------|--|-------|-----------------|---------------|-----------|----|
| 授 業 科 目 名                  | 鍵盤表現特別演習   | 教 員 名 | 本 廣 明 美<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選択 |
| ナンバリングコード                  | UM5-0021-02000   |       |                 |               | 幼 稚 園 教 諭 |    |
| 授 業 形 態                    | 演習   | 年次配当  | 1 年前期           | 修 了 要 件       | 選 択       |    |
| 単 位 数                      | 2  |       |                 |               |           |    |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 幼稚園  |       |                 |               |           |    |
| 授業のテーマ                     | ピアノ演奏、イメージの形成、自己表現力  |       |                 |               |           |    |
| 授 業 概 要                    | 鍵盤表現についての幅広い知識や奏法及び表現法を学ぶ。ピアノ曲と演奏法について、「音高」「速さ」「強弱」「リズム」「奏法」などに視点を持ち、イメージの形成と表現の関係性を分析し考究する。<br>そしてそれらを、対象である子どもの成長発達を踏まえ、興味・関心を持たせたいピアノ曲の演奏や表現に生かすことで、ピアノの技術と豊かな表現力の向上を目指す。   |       |                 |               |           |    |
| 達 成 目 標                    | 1. 鍵盤表現についての幅広い知識や奏法を知る。<br>2. ピアノ曲の歴史を理解する<br>3. イメージの形成と表現の関係性を理解する。<br>4. 豊かなピアノの演奏技術を習得する。   |       |                 |               |           |    |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接授業のみ  |       |                 |               |           |    |
| 授 業 計 画                    | 1. ピアノ表現の知識と奏法 (目標 1)<br>2. ピアノ曲の歴史 (作曲家と作品 ロマン派以前) (目標 1,2)<br>3. ピアノ曲の歴史 (作曲家と作品 近・現代) (目標 1,2)<br>4. さまざまな様式におけるピアノ表現 (目標 1,2)<br>5. さまざまな形式におけるピアノ表現 (目標 1,2)<br>6. ジャンル別におけるピアノ表現 (目標 1,2)<br>7. イメージの弁別法とイメージの形成の仕方 (目標 3)<br>8. イメージと鍵盤表現との関連 (目標 3)<br>9. ピアノ曲と鍵盤表現 (動きを表わす曲) (目標 3,4)<br>10. ピアノ曲と鍵盤表現 (動物・乗り物等を表わす曲) (目標 3,4)<br>11. ピアノ曲と鍵盤表現 (感情を表わす曲) (目標 3,4)<br>12. ピアノ曲と鍵盤表現 (情景描写を表わす曲) (目標 3,4)<br>13. ピアノ曲と鍵盤表現 (四季を表わす曲) (目標 3,4)<br>14. ピアノ演奏と曲のプレゼンテーションの練習 (目標 1,2,3,4)<br>15. ピアノ演奏発表と曲のプレゼンテーション (目標 1,2,3,4) |       |                 |               |           |    |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の基準：達成目標の基本的な事柄を理解し、自ら演奏技能を高め習得することができる。<br>評価の方法：ピアノ演奏 (60%)<br>曲のプレゼンテーション (20%)<br>授業への取り組みの態度 (20%)  |       |                 |               |           |    |
| アクティブラーニング                 | プレゼンテーション、グループワーク  |       |                 |               |           |    |
| フィードバックの方法                 | 発表の後のコメントを参考に、問題解決に取り組むこと。   |       |                 |               |           |    |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | 予習：授業で学習するピアノ曲について調べ、練習をする。90分。<br>復習：ピアノ練習をする。さらに発展的な課題について調べる。90分。   |       |                 |               |           |    |
| 教材にかかわる<br>情 報             | テキスト：共著：本廣明美 加藤照恵 「保育の現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう」<br>(ドレミ楽譜出版社)、適宜プリントを配布<br>参 考 書：<br>参 考 資 料 等：  |       |                 |               |           |    |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 | 弾く練習だけでなく、その曲の背景や作曲者の思いなども、自主的に文献研究することで、演奏能力を高めてほしい。  |       |                 |               |           |    |
| 備 考                        |  |       |                 |               |           |    |

|                            |  |       |               |               |           |     |
|----------------------------|--|-------|---------------|---------------|-----------|-----|
| 授 業 科 目 名                  | 造形表現特別演習   | 教 員 名 | 武田 雅行<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選 択 |
| ナンバリングコード                  | UM6-0022-00200   |       |               |               | 幼 稚 園 教 諭 |     |
| 授 業 形 態                    | 演 習  | 年次配当  | 2年前期          | 修 了 要 件       | 選 択       |     |
| 単 位 数                      | 2  |       |               |               |           |     |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 小学校  |       |               |               |           |     |
| 授業のテーマ                     | 出身県内美術工芸品や児童・学校・地域等の実態をもとにした題材開発並びに研究成果の発表   |       |               |               |           |     |
| 授 業 概 要                    | 題材開発のための調査・研究とそれに基づく試作や指導計画・指導案作成と研究成果の発表  |       |               |               |           |     |
| 達 成 目 標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 美術工芸品や児童作品の色彩や形、構成など芸術表現・造形表現について調査・分析できる。</li> <li>2. 児童・学校・地域性等の実態をもとにオリジナル題材を開発することができる。</li> <li>3. 開発題材にかかわる指導計画や指導案等を考案することができる。</li> <li>4. 自己課題をもとに一連の調査・研究の成果をまとめ、発表することができる。</li> </ol>  |       |               |               |           |     |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | 授業方法①面接のみ  |       |               |               |           |     |
| 授 業 計 画                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業説明をもとにした自己課題の設定 (目標 1)</li> <li>2. 自己課題に基づく研究計画の立案 (目標 1)</li> <li>3. 実態調査1 (出身県の美術工芸品・民芸品等の調査・分析とまとめ) (目標 1)</li> <li>4. 実態調査2 (山口県内の小学校児童の造形作品の調査・分析とまとめ) (目標 1)</li> <li>5. 調査結果に基づく題材開発1 (構想) (目標 2)</li> <li>6. 調査結果に基づく題材開発2 (試作) (目標 2)</li> <li>7. 試作品の検討とまとめ (目標 2)</li> <li>8. 開発題材にかかわる指導計画立案 (目標 3)</li> <li>9. 開発題材にかかわる指導案作成 (目標 3)</li> <li>10. 調査研究の成果のまとめ1 (開発題材にかかる制作物のまとめ) (目標 3)</li> <li>11. 調査研究の成果のまとめ2 (開発題材にかかる文書のまとめ) (目標 3)</li> <li>12. 研究成果の発表準備1 (パネル表示) (目標 4)</li> <li>13. 研究成果の発表準備2 (試作品等モデルの制作) (目標 4)</li> <li>14. 研究成果の発表 (目標 4)</li> <li>15. 研究成果のまとめと評価 (目標 4)</li> </ol> |       |               |               |           |     |
| 成 績 評 価 基 準                | <p>評価の基準： 児童・学校・地域の実態調査に基づく教材研究により、新たな題材を開発することができる。</p> <p>評価の方法： 調査・研究・発表内容 50%、制作パネル、試作品・指導案 30%、研究意欲・態度 20%</p>  |       |               |               |           |     |
| アクティブラーニング                 | プレゼンテーション、グループワーク  |       |               |               |           |     |
| フィードバックの方法                 | 研究テーマ、調査方法・発表内容をはじめ、制作パネル、試作品、指導案等、その都度指導助言を行う。  |       |               |               |           |     |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | <p>予習：自己課題に基づく次時内容の確認と構想、資料や材料・用具の確認と準備 90分。</p> <p>復習：受講内容のまとめと資料の整理、未完成箇所の補完 90分。</p>  |       |               |               |           |     |
| 教材にかかわる<br>情 報             | <p>テキスト：収集資料と自作資料、県内の美術品・伝統工芸品等に係わる資料<br/>「色・イメージ・構成」寺門保夫・田口敦子・阿部隆夫 (技術シリーズ別冊アトリエ)<br/>他 適宜紹介</p> <p>参 考 書：<br/>参 考 資 料 等：</p>   |       |               |               |           |     |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 | 題材開発のための手順・方法がわかり、オリジナル題材の開発能力を身につけることができる。  |       |               |               |           |     |
| 備 考                        |  |       |               |               |           |     |

|              |  |      |               |               |       |    |
|--------------|--|------|---------------|---------------|-------|----|
| 授業科目名        | わらべうたの研究   | 教員名  | 河北 邦子<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小学校教諭 | 選択 |
| ナンバリングコード    | UM6-0023-02000   |      |               |               | 幼稚園教諭 |    |
| 授業形態         | 演習   | 年次配当 | 2年後期          | 修了要件          | 選択    |    |
| 単位数          | 2  |      |               |               |       |    |
| 教科及び教職に関する科目 | 幼稚園  |      |               |               |       |    |
| 授業のテーマ       | 伝承、伝播、うた、あそび、ことば、地域性、わらべうたの種類、教材化  |      |               |               |       |    |
| 授業概要         | わらべうたについて、講義・文献研究、及び演習を通して学ぶ。子どもの生活とわらべうた遊び、また子どもの発達との関連について、より多くのわらべうたに接しながら、保育・教育的意義の側面からわらべうたあそびを捉える。   |      |               |               |       |    |
| 達成目標         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. わらべうたの伝承・伝播の特徴を事例により理解する。</li> <li>2. わらべうたを音楽と言葉の側面から分析することで地域性・時代性について考察する。</li> <li>3. 子どもの発達とわらべうたの遊び性の関連について考える。</li> <li>4. 日本伝統音楽の音組織によることを理解する。</li> <li>5. わらべうたの教材化について考える。</li> </ol>   |      |               |               |       |    |
| 履修条件・注意事項    | 活動できる服装、靴で履修すること。<br>授業方法①面接のみ   |      |               |               |       |    |
| 授業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要と特徴 わらべうたの成立、わらべうたの要素 (目標 1)</li> <li>2. 伝承について、うた・ことば・あそびを比較 (目標 1,2)</li> <li>3. 伝播について1, うた・ことば・あそびを比較 (目標 1,2)</li> <li>4. 伝播について2, 事例を比較研究し地域性について考える (目標 1,2)</li> <li>5. わらべうたあそびと子どもの発達1 あそばせうた (目標 3)</li> <li>6. わらべうたあそびと子どもの発達2 あそびうた (目標 3)</li> <li>7. わらべうたあそびと子どもの発達3 (感覚器官・運動能力・手行為) (目標 3)</li> <li>8. わらべうたあそびと子どもの発達4 (言語能力・音楽能力・社会性) (目標 3)</li> <li>9. 音楽的特徴1, 拍・リズム (目標 4)</li> <li>10. 海外の伝承あそびと教育の関わり (目標 4,5)</li> <li>11. 日本の伝承あそびの教育的意義 (目標 4,5)</li> <li>12. わらべうたの教材化について (目標 4,5)</li> <li>13. わらべうたの教材化演習1, 指導計画 (目標 4,5)</li> <li>14. わらべうたの教材化演習2, 模擬実践 (目標 4,5)</li> <li>15. わらべうたについてのまとめ</li> </ol> |      |               |               |       |    |
| 成績評価基準       | <p>評価の基準： わらべうたのもつ教材としての意義を理解し、教育・保育の場で活かす具体的な方法を考えることができる。</p> <p>評価の方法：授業への取り組みの姿勢 (30%)、課題の発表 (70%)。</p>  |      |               |               |       |    |
| アクティブラーニング   | ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク   |      |               |               |       |    |
| フィードバックの方法   | 実演にコメントする。   |      |               |               |       |    |
| 時間外の学習について   | <p>予習：資料を調べ、プレゼンが出来るようにする。90分。</p> <p>復習：うたの練習を重ねて習得する、発展的課題について調べる。90分。</p>   |      |               |               |       |    |
| 教材にかかわる情報    | <p>テキスト：『保育者・教育者のための わらべうたあそび』河北邦子、適宜プリント配布</p> <p>参考書：『日本伝統音楽の研究』日本伝統音楽の研究2』小泉文夫『、近世童謡童遊集』尾原昭夫、『わらべうたであそぼう』(年少・年中・年長編)(コダーイ芸術教育研究著)、『山口のわらべうた』内田伸・河北邦子著 日本のわらべうた全集1～27巻 浅野建二 平井康三郎 後藤捷一 監修、『日本伝統音楽の授業をデザインする』小島律子 暁教育図書</p> <p>参考資料等：</p>   |      |               |               |       |    |
| 担当者からのメッセージ等 | 演習を伴うので、動くことができる服装と靴で授業に参加すること。  |      |               |               |       |    |
| 備考           |  |      |               |               |       |    |

|                            |  |       |       |               |           |    |
|----------------------------|--|-------|-------|---------------|-----------|----|
| 授 業 科 目 名                  | 郷土の美術研究  | 教 員 名 | 武田 雅行 | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選択 |
| ナンバリングコード                  | UM6-0024-02000   |       | (単独)  |               | 幼 稚 園 教 諭 |    |
| 授 業 形 態                    | 演習   | 年次配当  | 2年後期  | 修 了 要 件       | 選択        |    |
| 単 位 数                      | 2  |       |       |               |           |    |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 幼稚園  |       |       |               |           |    |
| 授業のテーマ                     | 鑑賞、地域文化、郷土の美術、美術教育、調査、研究、技法、工作   |       |       |               |           |    |
| 授 業 概 要                    | 調査・研究に当たっては、事前学習の後、地域の美術館や博物館に収蔵されている各ジャンルの優れた美術作品を鑑賞する機会を通じて、各種資料や情報の収集を行い、その考察の成果を含めて研究ファイルとしてまとめる。また、造形表現に欠かせない要素である色彩・形・構成の重要性に常に立ち返り、美術分野における地域文化の専門的知識を身につけた上で、子どもと心を通わせる美術的側面からの「おもちゃ作り」や「絵手紙作成」の演習等も行い、美術と子どもとの関わりや、造形表現が地域や家庭、教育現場でどのように活かせるかを考察する。   |       |       |               |           |    |
| 達 成 目 標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的郷土の美術作家について説明できる。</li> <li>2. 優れた作品を生み出す作家の生き様を通して感性を育むことの大切さに気づく。</li> <li>3. 色彩や形などの芸術表現・技法について分析できる。</li> <li>4. 研究や考察の経験を通して自らの教育実践に応用できる。</li> </ol>   |       |       |               |           |    |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | ①面接のみ  |       |       |               |           |    |
| 授 業 計 画                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 山口県の美術・授業計画提示 (目標 1,2)</li> <li>2. 山口県の日本画 文献・スライド・ビデオ等による事前学習 (目標 1,2)</li> <li>3. 毛利博物館見学 (目標 1,2,3)</li> <li>4. 雪舟および雲谷派の作家 (目標 1,2)</li> <li>5. 研究ファイル作成 資料の収集と考察 (目標 1,2,3)</li> <li>6. 山口県の洋画・彫刻 文献等による事前学習 (目標 1,2)</li> <li>7. 山口県立美術館見学 (目標 1,2,3)</li> <li>8. 香月美術館見学 (目標 1,2,3)</li> <li>9. 研究ファイル作成 資料の収集と考察 (目標 1,2,3)</li> <li>10. 山口県の工芸 文献等による事前学習 (目標 1,2)</li> <li>11. 萩浦上記念館見学 (目標 1,2,3)</li> <li>12. 工作 ①身近な廃材を使用しておもちゃ制作 (目標 4)</li> <li>13. 工作 ②前回の続き (目標 4)</li> <li>14. 絵手紙制作 (目標 4)</li> <li>15. 研究ファイル作成 資料の収集と考察及びまとめ (目標 1,2,3,4)</li> </ol> |       |       |               |           |    |
| 成 績 評 価 基 準                | <p>評価の基準：郷土の美術や作家について理解し、説明できる。</p> <p>評価の方法：提出 研究ファイル及び作品提出 (50%)。試験による評価 (30%)。授業への取り組みの態度 (20%)。</p>  |       |       |               |           |    |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション   |       |       |               |           |    |
| フィードバックの方法                 | 作成した研究ファイルを基に口頭発表することで、考察や知識を自分のものとする。   |       |       |               |           |    |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | <p>予習：資料をよく読むこと。90分。</p> <p>復習：課題について調べること。90分。</p>  |       |       |               |           |    |
| 教材にかかわる<br>情 報             | <p>テキスト：特になし</p> <p>参 考 書：「山口県の美術」編集：榎本徹 監修：河野良輔（思文閣出版）郷土史「防長の美術と文化」全2巻（学研）「香月泰男展図録」編集：山口県立美術館（艸藝社）ほか</p> <p>参考資料等：</p>  |       |       |               |           |    |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 | 学外に出て、実物に触れる機会を多くもつので、集合時間等厳守すること。   |       |       |               |           |    |
| 備 考                        | 学外の美術館見学については内容により予定を変更する場合がある。  |       |       |               |           |    |

|                            |   |       |              |               |           |     |
|----------------------------|---|-------|--------------|---------------|-----------|-----|
| 授 業 科 目 名                  | 第二言語習得研究  | 教 員 名 | 二五義博<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 | 選 択 |
| ナンバリングコード                  | UM5-0025-00200  |       |              |               | 幼 稚 園 教 諭 |     |
| 授 業 形 態                    | 演 習   | 年次配当  | 1 年前期        | 修 了 要 件       |           | 選 択 |
| 単 位 数                      | 2   |       |              |               |           |     |
| 教科及び教職に<br>関する科目           | 小学校   |       |              |               |           |     |
| 授業のテーマ                     | 子どもの言語習得、気づき、理解、内在化、統合、インタラクション、意味交渉  |       |              |               |           |     |
| 授 業 概 要                    | 第二言語習得における認知プロセス（気づき、理解、内在化、統合）、インタラクション、意味交渉に焦点を当て、当該分野における最新の研究動向を理解し、その研究成果を子どもに英語を指導する際にどのように応用するかについて検討する。授業は発表と発表内容に基づいた話し合いを中心に行う。他者と協力しながら子どもの中間言語の発達を促す授業活動を立案する演習を行う。   |       |              |               |           |     |
| 達 成 目 標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第二言語習得研究の2つのアプローチについて説明することができる。</li> <li>2. 第二言語習得研究の研究動向について理解している。</li> <li>3. 第二言語習得のプロセスについて説明することができる。</li> <li>4. 第二言語習得研究の研究成果を考慮した授業活動を立案することができる。</li> </ol>  |       |              |               |           |     |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | 受講前にLTD（Learning through Discussion）に関連する資料に目を通しておくことが望ましい。<br>授業方法①面接のみ  |       |              |               |           |     |
| 授 業 計 画                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（目標 1）</li> <li>2 学問分野としての第二言語習得研究（目標 1,2）</li> <li>3 第二言語習得のプロセス（目標 3）</li> <li>4 気づき仮説（目標 2）</li> <li>5 インプット仮説（目標 2）</li> <li>6 アウトプット仮説（目標 2）</li> <li>7 インタラクション仮説（目標 2）</li> <li>8 内容言語統合型学習（目標 2）</li> <li>9 多重知能理論（目標 2）</li> <li>10 音韻レベルの処理の自動化を促す授業活動（目標 4）</li> <li>11 意味交渉を伴う授業活動（目標 4）</li> <li>12 認知比較（Cognitive Comparison）を引き起こす授業活動（目標 4）</li> <li>13 アウトプットの指導（目標 4）</li> <li>14 コミュニケーション方略の指導（目標 4）</li> <li>15 コミュニケーション活動の重要性（目標 1,2,3,4）</li> </ol> |       |              |               |           |     |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の基準：達成目標に到達したかどうか<br>評価の方法：レポート（40%） プレゼンテーション（40%） 授業への貢献（20%）   |       |              |               |           |     |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション  |       |              |               |           |     |
| フィードバックの方法                 | レポート等は授業担当者のコメントを添えて返却します。  |       |              |               |           |     |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | 予習：学習課題を読み予習ノートを作成しておくこと。90分<br>復習：授業内で授業後の課題が指示されます。復習は他の受講生との協働作業になります。90分  |       |              |               |           |     |
| 教材にかかわる<br>情 報             | 学術誌等で公開されている論文を配布する。配付資料の30%程度は英語の論文を使用する。  |       |              |               |           |     |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 |   |       |              |               |           |     |
| 備 考                        |   |       |              |               |           |     |

|              |  |      |               |               |       |  |
|--------------|--|------|---------------|---------------|-------|--|
| 授業科目名        | 教育情報科学特論   | 教員名  | 三池 秀敏<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小学校教諭 |  |
| ナンバリングコード    | UM5-0026-00000   |      |               |               | 幼稚園教諭 |  |
| 授業形態         | 講義   | 年次配当 | 1年前期          | 修了要件          | 選択    |  |
| 単位数          | 2  |      |               |               |       |  |
| 授業のテーマ       | 教育技術、情報科学、脳科学、データサイエンス、ニューラルネットワーク、視覚心理、AI (人工知能)  |      |               |               |       |  |
| 授業概要         | 教育現場で必要な情報処理理論・技術の基本を確認するとともに、データ活用能力の向上のためのデータサイエンスや人工知能 (AI)、更には最先端の脳科学 (視覚心理、意識を含む) や3DCG (3次元コンピュータグラフィックス) についても学び、情報科学技術を教育現場や社会で活用するための方策を探索する。   |      |               |               |       |  |
| 達成目標         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育技術としての情報処理理論・技術を再確認する。</li> <li>2. データ活用能力の向上のため、データサイエンスやAIの基本を学び、データ処理の実践課題を解決する。</li> <li>3. 最先端の脳科学や3DCG技術を学び、情報科学技術を活用する方策を理解し発案する。</li> </ol>  |      |               |               |       |  |
| 履修条件・注意事項    | ①面接授業のみ  |      |               |               |       |  |
| 授業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容の説明及び情報科学基礎論Ⅰ (2進・10進・16進変換、論理演算) (目標 1)</li> <li>2. 情報科学基礎論Ⅱ (情報量と情報エントロピー) + 調査課題Ⅰ (目標 1)</li> <li>3. 情報科学基礎論Ⅲ (データの生成、処理・分析: 平均・分散・ヒストグラム) + 調査課題Ⅱ (目標 1,2)</li> <li>4. 情報科学基礎論Ⅳ (時系列データ処理: スペクトル解析) + 調査課題Ⅲ (目標 1,2)</li> <li>5. 画像データ (2次元) の処理Ⅰ (画像強調・二値化) + 調査課題Ⅳ (目標 2)</li> <li>6. 画像データ (2次元) の処理Ⅱ (フィルタリング) + 調査課題Ⅴ (目標 2)</li> <li>7. 動画データ (3次元) の処理Ⅰ (オプティカルフロー) + 調査課題Ⅵ (目標 2)</li> <li>8. 動画データ (3次元) の処理Ⅱ (空間フィルタ) + 調査課題Ⅶ (目標 2)</li> <li>9. 調査課題のプレゼンテーション&amp;質疑応答Ⅰ (各自 10 分間のプレゼン+5 分の質疑応答) (目標 2)</li> <li>10. 脳科学の基礎Ⅰ (神経細胞、ニューラルネットワーク) + 調査課題Ⅷ (目標 2)</li> <li>11. 脳科学の基礎Ⅱ (バックプロパゲーション、ディープラーニング、AI技術) + 調査課題Ⅸ (目標 2)</li> <li>12. 脳科学の基礎Ⅲ (視覚心理と錯視) + 調査課題Ⅹ (目標 3)</li> <li>13. 脳科学の基礎Ⅳ (脳・こころ・意識と知情意) + 調査課題Ⅺ (目標 3)</li> <li>14. 3次元コンピュータグラフィックス (3DCG) の原理と応用 (目標 3)</li> <li>15. 3DCGソフトの活用による教材開発演習 (目標 3)</li> <li>16. 調査課題のプレゼンテーション&amp;質疑応答Ⅱ (各自 15 分間のプレゼン+5 分の質疑応答) (目標 2)</li> </ol> |      |               |               |       |  |
| 成績評価基準       | <p>評価の方法: 情報科学の基礎理論と関連技術の動向を理解し、自分の教育技術として活かすことができる。</p> <p>評価の基準: 調査課題レポート (40 点)、プレゼンテーション (40 点)、授業中の取り組み姿勢 (質疑応答等) (20 点)</p>  |      |               |               |       |  |
| アクティブラーニング   | プレゼンテーション、グループワーク  |      |               |               |       |  |
| フィードバックの方法   | 課題に対してコメントをつけて返却する。  |      |               |               |       |  |
| 時間外の学習について   | <p>予習: 次回の授業のテーマについて、予め調査・研究しておく。90 分。</p> <p>復習: 毎回の調査課題を整理し、自分なりのまとめのノートを作成しポートフォリオ化する。90 分。</p>   |      |               |               |       |  |
| 教材にかかわる情報    | <p>テキスト: 特になし</p> <p>参考書: 三池秀敏、古賀和利編著「デジタル動画画像処理」(大学教育出版、2018 年)、</p> <p>参考資料等:</p>  |      |               |               |       |  |
| 担当者からのメッセージ等 | 現代社会に求められている情報活用能力の基本を学び、実践に活かしましょう。   |      |               |               |       |  |
| 備考           | <p>E-Mail: miike@y-gakugei.ac.jp</p> <p>プレゼンテーション&amp;質疑応答により評価を行い、期末試験は実施しない。</p>   |      |               |               |       |  |

|                            |  |       |                |               |           |  |
|----------------------------|--|-------|----------------|---------------|-----------|--|
| 授 業 科 目 名                  | 教育特別研究 I   | 教 員 名 | 川野哲也ほか<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 |  |
| ナンバリングコード                  | UM5-0027-00000   |       |                |               | 幼 稚 園 教 諭 |  |
| 授 業 形 態                    | 演 習  | 年次配当  | 1 年前期          | 修 了 要 件       | 必 修       |  |
| 単 位 数                      | 2  |       |                |               |           |  |
| 授 業 の テ ー マ                | 問題意識の明確化、先行研究のレビュー   |       |                |               |           |  |
| 授 業 概 要                    | 学生の研究課題に即して、初歩的段階における研究指導を行う。  |       |                |               |           |  |
| 達 成 目 標                    | 1. 学問領域について把握するとともに、自らの問題意識を明らかにする。<br>2. 問題意識を文章化したり発表したりする中で、各自の研究テーマを明確にする。<br>3. 学問領域における最新の研究動向を調査し整理する。<br>4. 研究アプローチについても吟味し、各自が依拠する研究アプローチを自覚する。   |       |                |               |           |  |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | 指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。<br>①面接授業のみ   |       |                |               |           |  |
| 授 業 計 画                    | 1. 学問領域の性格と課題1 (目標 1,2,3,4)<br>2. 学問領域の性格と課題2 (目標 1,2,3,4)<br>3. 学問領域の性格と課題3 (目標 1,2,3,4)<br>4. 最新の研究動向についての概観1 (目標 1,2,3,4)<br>5. 最新の研究動向についての概観2 (目標 1,2,3,4)<br>6. 最新の研究動向についての概観3 (目標 1,2,3,4)<br>7. 最新の研究動向についての概観4 (目標 1,2,3,4)<br>8. 最新の研究動向についての概観5 (目標 1,2,3,4)<br>9. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー1 (目標 1,2,3,4)<br>10. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー2 (目標 1,2,3,4)<br>11. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー3 (目標 1,2,3,4)<br>12. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー4 (目標 1,2,3,4)<br>13. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー5 (目標 1,2,3,4)<br>14. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー6 (目標 1,2,3,4)<br>15. 研究構想のまとめ (目標 1,2,3,4) |       |                |               |           |  |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の基準：学問領域をふまえ、自分の研究テーマを明確にできるか。<br>評価の方法：授業中の発言・プレゼン 50% レポート 50%   |       |                |               |           |  |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション、  |       |                |               |           |  |
| フィードバックの方法                 | 毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。  |       |                |               |           |  |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | 予習：資料を読み、プレゼンが出来るように準備すること。90分<br>復習：授業で扱った内容については復習し、関連事項を調べておくこと。90分   |       |                |               |           |  |
| 教 材 に か か わ る<br>情 報       | テキスト：特になし<br>参 考 書：適宜紹介する。<br>参 考 資 料 等：特になし   |       |                |               |           |  |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 |  |       |                |               |           |  |
| 備 考                        |  |       |                |               |           |  |

|                            |   |       |                |               |           |  |
|----------------------------|---|-------|----------------|---------------|-----------|--|
| 授 業 科 目 名                  | 教育特別研究Ⅱ   | 教 員 名 | 川野哲也ほか<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 |  |
| ナンバリングコード                  | UM5-0028-00000  |       |                |               | 幼 稚 園 教 諭 |  |
| 授 業 形 態                    | 演 習   | 年次配当  | 1年後期           | 修 了 要 件       | 必修        |  |
| 単 位 数                      | 2   |       |                |               |           |  |
| 授 業 の テ ー マ                | 調査、資料収集、分析  |       |                |               |           |  |
| 授 業 概 要                    | 学生の研究課題に即して、調査段階・資料収集における研究指導を行う。   |       |                |               |           |  |
| 達 成 目 標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究アプローチに依拠しつつ文献資料の収集、精読、実態調査等を行う。</li> <li>2. 自己の解釈に基づいて先行研究を評価・解釈するとともに、問題意識を深化発展させる。</li> <li>3. (研究テーマによっては) 実態調査や質問紙調査の研究方法についても学ぶ。</li> <li>4. 学術研究大会に参加するなどして研究活動の条件や研究の発展性についても学ぶ。</li> </ol>  |       |                |               |           |  |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | 指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。<br>①面接授業のみ  |       |                |               |           |  |
| 授 業 計 画                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究アプローチの確認 (目標 1,2,3,4)</li> <li>2. 文献資料の収集および精読 または実態調査 1 (目標 1,2,3,4)</li> <li>3. 文献資料の収集および精読 または実態調査 2 (目標 1,2,3,4)</li> <li>4. 文献資料の収集および精読 または実態調査 3 (目標 1,2,3,4)</li> <li>5. 文献資料の収集および精読 または実態調査 4 (目標 1,2,3,4)</li> <li>6. 文献資料の収集および精読 または実態調査 5 (目標 1,2,3,4)</li> <li>7. 文献資料の収集および精読 または実態調査 6 (目標 1,2,3,4)</li> <li>8. 文献資料の収集および精読 または実態調査 7 (目標 1,2,3,4)</li> <li>9. 文献資料の収集および精読 または実態調査 8 (目標 1,2,3,4)</li> <li>10. 文献資料の収集および精読 または実態調査 9 (目標 1,2,3,4)</li> <li>11. 文献資料の収集および精読 または実態調査 10 (目標 1,2,3,4)</li> <li>12. 文献資料の収集および精読 または実態調査 11 (目標 1,2,3,4)</li> <li>13. 文献資料の収集および精読 または実態調査 12 (目標 1,2,3,4)</li> <li>14. 文献資料の収集および精読 または実態調査 13 (目標 1,2,3,4)</li> <li>15. 調査結果のまとめ、資料整理 (目標 1,2,3,4)</li> </ol> |       |                |               |           |  |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の基準：文献資料をよみとくことができるか、実態調査の方法を理解したか。<br>評価の方法：授業中の発言・プレゼン 50% レポート 50%   |       |                |               |           |  |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション  |       |                |               |           |  |
| フィードバックの方法                 | 毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。   |       |                |               |           |  |
| 時 間 外 の<br>学 習 について        | 予習：資料を読み、プレゼンが出来るように準備すること。90分<br>復習：授業で扱った内容については復習し、関連事項を調べておくこと。90分  |       |                |               |           |  |
| 教材にかかわる<br>情 報             | テキスト：特になし<br>参 考 書：特になし<br>参 考 資 料 等：特になし   |       |                |               |           |  |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 |   |       |                |               |           |  |
| 備 考                        |   |       |                |               |           |  |

|              |   |      |                |               |       |  |
|--------------|---|------|----------------|---------------|-------|--|
| 授業科目名        | 教育特別研究Ⅲ   | 教員名  | 川野哲也ほか<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小学校教諭 |  |
| ナンバリングコード    | UM6-0029-00000  |      |                |               | 幼稚園教諭 |  |
| 授業形態         | 演習  | 年次配当 | 2年前期           | 修了要件          | 必修    |  |
| 単位数          | 2   |      |                |               |       |  |
| 授業のテーマ       | 発展的調査、資料の解釈や議論  |      |                |               |       |  |
| 授業概要         | 学生の研究課題に即して、発展的段階における研究指導を行う。   |      |                |               |       |  |
| 達成目標         | 1. 収集した文献資料やデータを整理し、必要に応じて追加調査を行う。<br>2. 各自の研究目的に即した形で解釈や吟味を行う。<br>3. 問題意識、研究目的、研究方法、研究成果などの一貫性および妥当性について吟味する。  |      |                |               |       |  |
| 履修条件・注意事項    | 指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。<br>①面接授業のみ  |      |                |               |       |  |
| 授業計画         | 1. 文献資料および調査結果の確認および整理1 (目標 1,2,3)<br>2. 文献資料および調査結果の確認および整理2 (目標 1,2,3)<br>3. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味1 (目標 1,2,3)<br>4. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味2 (目標 1,2,3)<br>5. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味3 (目標 1,2,3)<br>6. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味4 (目標 1,2,3)<br>7. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味5 (目標 1,2,3)<br>8. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論1 (目標 1,2,3)<br>9. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論2 (目標 1,2,3)<br>10. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論3 (目標 1,2,3)<br>11. 補足的調査および文献資料の収集1 (目標 1,2,3)<br>12. 補足的調査および文献資料の収集2 (目標 1,2,3)<br>13. 補足的調査および文献資料の収集3 (目標 1,2,3)<br>14. 補足的調査および文献資料の収集4 (目標 1,2,3)<br>15. 研究論文の全体像を吟味 (目標 1,2,3) |      |                |               |       |  |
| 成績評価基準       | 評価の基準：問題意識、研究目的との関係で文献資料、調査結果を評価解釈できるか。<br>評価の方法：授業中の発言・プレゼン 50%、レポート 50%   |      |                |               |       |  |
| アクティブラーニング   | ディスカッション、プレゼンテーション  |      |                |               |       |  |
| フィードバックの方法   | 毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。   |      |                |               |       |  |
| 時間外の学習について   | 予習：資料を読み、プレゼンが出来るように準備すること。90分<br>復習：授業で扱った内容については復習し、関連事項を調べておくこと。90分  |      |                |               |       |  |
| 教材にかかわる情報    | テキスト：特になし<br>参考書：特になし<br>参考資料等：特になし   |      |                |               |       |  |
| 担当者からのメッセージ等 |   |      |                |               |       |  |
| 備考           |   |      |                |               |       |  |

|                            |   |       |                |               |           |  |
|----------------------------|---|-------|----------------|---------------|-----------|--|
| 授 業 科 目 名                  | 教育特別研究Ⅳ   | 教 員 名 | 川野哲也ほか<br>(単独) | 免許・資格<br>との関係 | 小 学 校 教 諭 |  |
| ナンバリングコード                  | UM6-0030-00000  |       |                |               | 幼 稚 園 教 諭 |  |
| 授 業 形 態                    | 演 習   | 年次配当  | 2年後期           | 修 了 要 件       | 必 修       |  |
| 単 位 数                      | 2   |       |                |               |           |  |
| 授 業 の テ ー マ                | 発展的調査、資料の解釈や議論  |       |                |               |           |  |
| 授 業 概 要                    | 学生の研究課題に即して、発展的段階における研究指導を行う。   |       |                |               |           |  |
| 達 成 目 標                    | 1. 収集した文献資料やデータを整理し、必要に応じて追加調査を行う。<br>2. 各自の研究目的に即した形で解釈や吟味を行う。<br>3. 問題意識、研究目的、研究方法、研究成果などの一貫性および妥当性について吟味する。  |       |                |               |           |  |
| 履 修 条 件<br>・ 注 意 事 項       | 指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。<br>①面接授業のみ  |       |                |               |           |  |
| 授 業 計 画                    | 1. 文献資料および調査結果の確認および整理1 (目標 1,2,3)<br>2. 文献資料および調査結果の確認および整理2 (目標 1,2,3)<br>3. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味1 (目標 1,2,3)<br>4. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味2 (目標 1,2,3)<br>5. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味3 (目標 1,2,3)<br>6. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味4 (目標 1,2,3)<br>7. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味5 (目標 1,2,3)<br>8. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論1 (目標 1,2,3)<br>9. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論2 (目標 1,2,3)<br>10. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論3 (目標 1,2,3)<br>11. 補足的調査および文献資料の収集1 (目標 1,2,3)<br>12. 補足的調査および文献資料の収集2 (目標 1,2,3)<br>13. 補足的調査および文献資料の収集3 (目標 1,2,3)<br>14. 補足的調査および文献資料の収集4 (目標 1,2,3)<br>15. 研究論文の全体像を吟味 (目標 1,2,3) |       |                |               |           |  |
| 成 績 評 価 基 準                | 評価の基準：問題意識、研究目的との関係で文献資料、調査結果を評価解釈できるか。<br>評価の方法：授業中の発言・プレゼン 50% レポート 50%   |       |                |               |           |  |
| アクティブラーニング                 | ディスカッション、プレゼンテーション  |       |                |               |           |  |
| フィードバックの方法                 | 毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。   |       |                |               |           |  |
| 時 間 外 の<br>学 習 に つ い て     | 予習：資料を読み、プレゼンが出来るように準備すること。90分<br>復習：授業で扱った内容については復習し、関連事項を調べておくこと。90分  |       |                |               |           |  |
| 教 材 に か か わ る<br>情 報       | テキスト：特になし<br>参 考 書：特になし<br>参 考 資 料 等：特になし   |       |                |               |           |  |
| 担 当 者 か ら の<br>メ ッ セ ー ジ 等 |   |       |                |               |           |  |
| 備 考                        |   |       |                |               |           |  |